

## 【資料紹介】飯塚米雨による「東京空襲日記」「東京空襲スケッチ」について

石 本 理 彩\*

### 目 次

はじめに

1 飯塚米雨について

2 資料の構成と特徴

(1) 東部軍情報・東部軍管区情報を記録

(2) 敵機のある空と光を描く

3 戦時下の空襲体験

おわりに

キーワード 東京空襲 警戒警報 空襲警報 東部軍情報 東部軍管区情報 防空情報 日記  
スケッチ

### はじめに

令和7年(2025)3月10日で、下町地区を中心に甚大な被害をもたらした所謂「東京大空襲」から80年を迎える。当館所蔵「東京空襲日記」(98004337-98004341)ならびに「東京空襲スケッチ」(98004342-98004381)は、これまで常設展示で活用されるなどしてきたが、全体像が示されることはなかった。この戦後80年という節目の年に、戦時下の暮らしがいかに空襲とともにあったかを紹介したい。

本稿では各資料の特性を考察した上で、飯塚米雨による戦時下の空襲体験を時系列に示す。これにより、彼が遺した記録の全体像をあぶりだすとともに、本資料が備える資料的価値について言及したい。

### 1 飯塚米雨について

作者の飯塚米雨(本名・飯塚辰雄、1881～1953)は、戦前期に活躍した美術史家である。主著に『日本画の見方』(東方書院、1929)、『陶工木米』(東明堂、1933)があるほか、昭和6年(1931)から昭和9年(1934)にかけて東方書院より刊行された『日本画大成』全50巻の解説文を担当した。

「東京空襲日記」(以下、日記)は、米雨が空襲の体験をその日ごとに反故紙の裏に書きつけていたものを、戦後、昭和25年(1950)12月28日までに市販のノートに清書したものである。空襲を目の当たり

\*東京都江戸東京博物館学芸員

にした米雨がその場で写生した「東京空襲スケッチ」(以下、スケッチ)と併せて、平成10年(1998)に当館が寄贈を受けた。

戦中、米雨は東京府東京市<sup>1)</sup>下谷区上野桜木町(現・東京都台東区上野桜木)で家族とともに暮らした。家族構成は、米雨と妻ヨシ、息子の由利、嫁ちか子の4人である。由利は銀行に勤務しており、ちか子は隣組の活動で忙しく過ごした。還暦を過ぎていた米雨は、ラジオや新聞で軍事と政治に関する情報を収集する日々を過ごしていた。

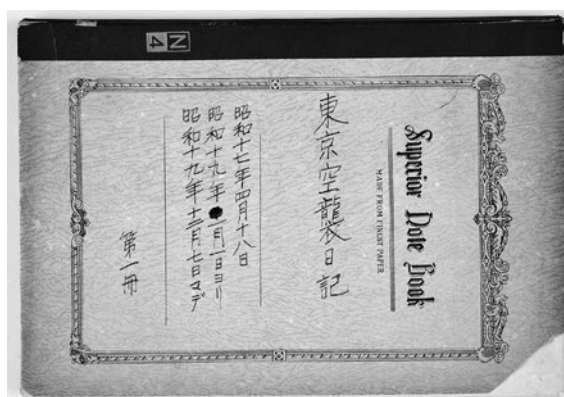
## 2 資料の構成と特徴

### (1) 東部軍情報・東部軍管区情報を記録

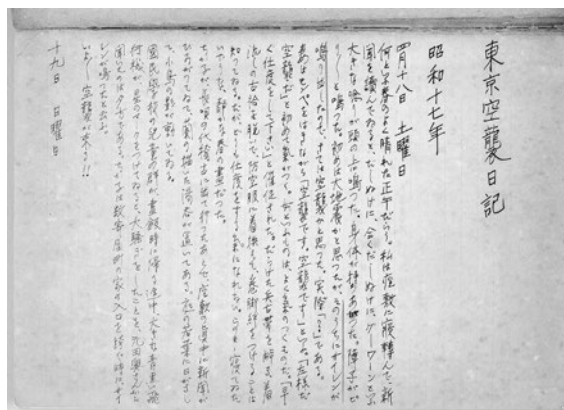
日記は全5冊で、米雨が61歳から64歳までの間の記録となる。第1冊目は昭和17年(1942)4月18日、19日、30日と昭和19年(1944)1月1日から12月7日昼頃までを収録、第2冊目以降は、昭和19年12月7日夕刻からの記録が1冊当たり数ヶ月分ずつ収録されている。そして、第5冊目は昭和20年(1945)7月18日から敗戦を経た同年9月22日の記述で日記を終えている【図1】。

米雨の頭上を初めて米国爆撃機が舞い、サイレンが鳴った昭和17年4月18日から開始される日記には、米雨が暮らした上野桜木町の戦時下での日々の暮らしが綴られている。日常生活の中に突如鳴り響く「警戒警報」発令のサイレン。そうした警報に関わる箇所に、赤鉛筆で傍線が付されている【図2】。

そして本資料の最大の特徴は、「警戒警報」「空襲警報」の発令と解除、その前後のラジオにおける「東部軍情報」「東部軍管区情報」を仔細に記録している点である。警報は各監視所から送られてくる敵機発見の報告をもとに、当該区域の防衛を担当する陸海軍司令官または軍司令官が指定した者から発せられ、その後、町会長や警防団を経て口頭による伝達やサイレン、あるいはラジオを通じて人々に伝えられた。これに対して、軍情報とはより仔細な敵機の数ならびに侵入経路をラジ



【図1】東京空襲日記 第一冊 表紙  
サイズは、縦165mm 横255mm。

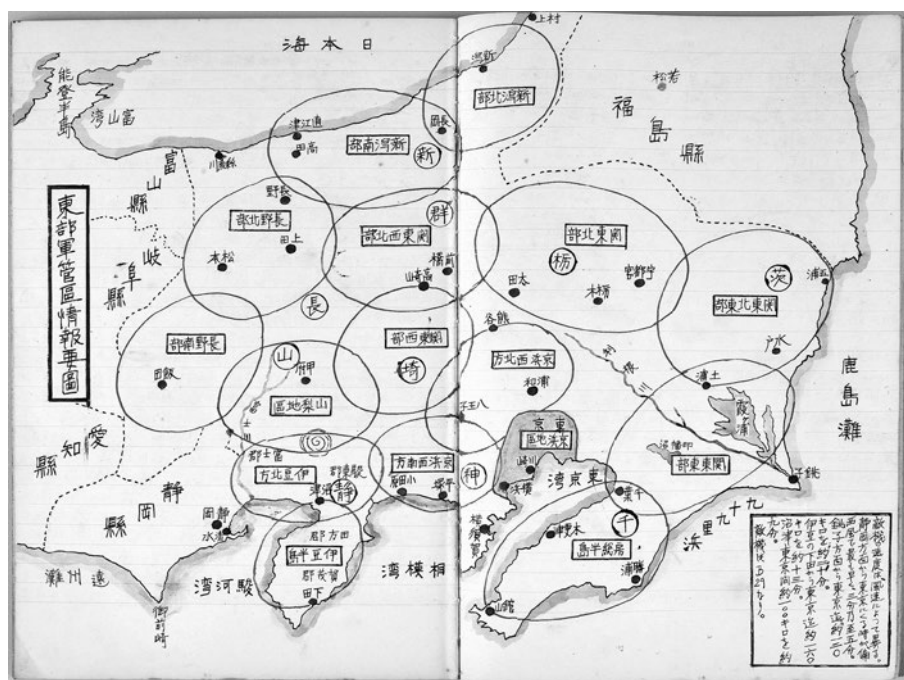


【図2】東京空襲日記 第一冊 昭和17年4月18日  
よく晴れた正午大きな唸りが頭の上に鳴った。はじめは大地震かと思ったが「そのうちにサイレンが鳴り出したので」、さては空襲かと思った。  
上記の鉤括弧内が、米雨が赤鉛筆で傍線を引いた箇所にあたる。

オで報じたもので、防空情報とも称された。

東部軍は関東・甲信越地方を管轄区域とし、管区内の軍隊を統率・指揮した。警報が発令されるとラジオ放送が東部軍司令部に切り替えられ、作戦室で作成された案文が決裁を経て、司令部内に設けられた放送室より直接放送された<sup>2)</sup>。米雨が耳にした東部軍情報の第一声は、昭和19年11月5日午前10時の警戒警報、続く空襲警報発令の後だった。「ヂイ デイ デイ（予知音）—東部軍情報、伊豆方面より敵機1機、北進中なり」<sup>3)</sup>。午前11時41分に空襲警報が解除されると、ラジオは「ヂイ デイ—東部軍情報、伊豆方面より侵入せる敵機1機は、投弾せずして、西方の雲中に遁去せり。なお、南方海面を警戒する必要あり」と報じた。この放送をもって、米雨は本格的な空襲開始としている。

軍管区制の改編により、昭和20年2月11日から東部軍管区が東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・茨城・長野・山梨・新潟の各県と富士川以東の静岡県を管轄することとなった<sup>4)</sup>。これを受け、米雨は「11日午前零時から新しい軍管区制が実施されるので、空襲地図を書き改める」<sup>5)</sup>と言って、【図3】の東部軍管区情報要図を自ら描いた。

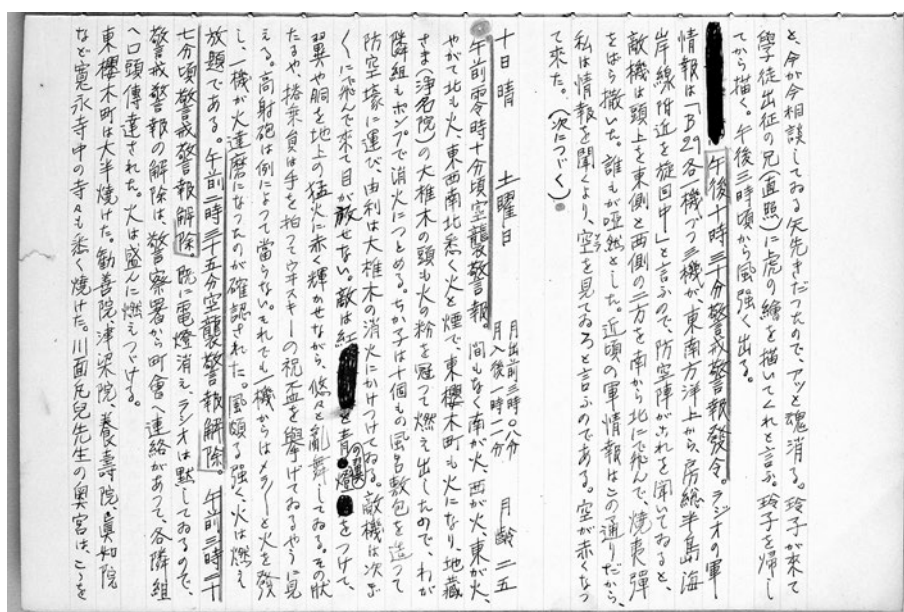


【図3】東京空襲日記 第三冊 東部軍管区情報要図

当時、敵機の侵入経路と軍管区への到達標準時間を描いた「東部軍管区情報解説要図」が、複数の発行所で制作されていた。米雨が描いた図は、それらの一つを模写したものと考えられる。米雨の図には、右下に敵機の東京までの到着速度が次のように記載されている。「敵機の速度は、風速によって異なる。静岡方面から東京にくる時が偏西風で最も早く、3分乃至5分。銚子方面から東京迄約120キロを約20分。伊豆の下田から東京迄160キロを約13分。沼津東京間約100キロを約9分。敵機はB29なり」<sup>6)</sup>。これらは、東部軍管区情報がもたらす地名を聞き、敵機が何分後に自分達が今いる場所の上空に到達するかを予測するために作成された。



【図4】は一晩で約84,000人<sup>7)</sup>もの死者を出した「東京大空襲」の様相を綴った頁である。昭和20年3月9日の夜10時30分に警戒警報が発令された。ラジオの軍情報は「B29各1機ずつ3機が、東南方洋上から房総半島海岸線附近を旋回中」<sup>8)</sup>と報じたにも関わらず、その直後には敵機が頭上を東側と西側の二方を南から北に飛んで、焼夷弾をばら撒き、空が赤くなってきた様子。10日の午前0時10分頃に空襲警報が鳴った後、やがて四方はことごとく火と煙で覆われ、敵機が次々と飛来した様が綴られている。



【図4】東京空襲日記 第三冊 昭和20年3月9日、10日  
9日「午後10時30分警戒警報発令」、10日「午前0時10分空襲警報」「午前2時35分 空襲警報解除」「午前3時27分頃警戒警報解除」の4箇所に赤鉛筆で傍線が付された。

このように、日記は全冊にわたって「警戒警報」「空襲警報」とそれに続く軍情報を軸に展開される。そして全ての警報箇所に赤鉛筆で傍線を引き、発令と解除の各々を角括弧で括って目立たせているのである。これらの印は、日記を空襲の記録として後世に残したいという米雨のメッセージと思えてならない。

5冊それぞれの内容については、第3節「戦時下の空襲体験」にて概説する。米雨が傍線を付した警報等については、空襲が本格化する昭和19年11月以降のものを巻末の【表1】東京空襲年表にリスト化した。併せてご覧いただきたい。

## (2) 敵機のある空と光を描く

次に、スケッチを紹介する。資料数は全40点で、昭和19年(1944)11月24日午後2時から昭和20年(1945)2月25日午後3時までの間に米雨が目撃した空襲の写生が中心となっている。他に附属品として、昭和20年3月1日付で米雨が全図を書き終えるにあたっての思いを綴った書付1枚がともに寄贈された。各スケッチには写生した日付と時間、場面を描写する短い記述が添えられている。当館にて資料名を付す際、日付と時間をそのまま資料名とした。全資料名と米雨による記述は、巻末の【表2】東京空襲スケッ

チ一覧に示した。37点に空が描かれており、2点は来訪者、残る1点は自宅建物である。ここでは、米雨が美術史家であるが故に独特の捉え方で敵機のある空を描いた2点を取り上げる。「其自然現象ノ瞬間ノ書画ヲ捕捉シテ、毫モ作為セズ、以テ天開ノ意匠ヲ永保セントスルニ勉メタリ」<sup>9)</sup>と米雨が書付に記した通り、その瞬間をいささかの作為なく純粹に保存したいがために描かれたスケッチは、戦争体験の労苦を伝える体験画とは一線を画すものである。敵機を夜空に映しだすために日本軍が照らした照空灯の光と敵機の競演に、米雨はある種の美を見出した。これが本資料の特徴である。

1点目に取り上げる【図5】は昭和19年12月10日午後8時15分の様子を捉えたスケッチで、同日午後8時5分発令の空襲警報に続く以下の記述に相当する。



【図5】東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月十日 午後八時十五分 敵B29我照空燈ノ三段円光中ニ直立ス

私は門前で見張る。敵1機は、地藏さま（浄名院）の森の北隅から薄白群色の空に、照空灯の光が射られている中を、小さな銀色の蜻蛉になって、此方に向いて飛んでくる。照明灯は黄色な捕虫網になって彼を包んでいる。銀の蜻蛉は慌てているように見える。やがて森の上に来た時には銀蜻蛉は白鳩になった。南に進むかと思うと西に向かった。私達の隣組の南側を通る。高射砲が盛んに打ちあげられる。白鳩の胴にパツ、パツ、パツと3度光った星が出た。〔中略〕2階屋根の上に東西南北からの照空灯が交差して、大きな金色の円を描いている。円光の中心に捕捉されて3度姿を変えた。それは今度は粉白粉を厚く塗った大蜻蛉になって、2つの翼をひろげ、頭の上に向けて垂直な、しかも平面図で、このピンでとめられた大蜻蛉は動かない。金色の円光は3段になっている。5秒、10秒。金色の円光が次第に薄くなると、白粉の蜻蛉は消えた。烈しかった高射砲の音もやんだ<sup>10)</sup>。

米雨は自宅から見えた1機のB29とそれを囲む照明灯を、虫網に捕らえられた大蜻蛉に例えた。「私は憎むべき敵機と言うよりは、美しい銀蜻蛉、白鳩、白い大蜻蛉が目にはっきり見えた」と述べると、管制電灯<sup>11)</sup>の下でスケッチに色を塗ったところで、この日の日記を終えている。

2点目は【図6】の昭和20年2月2日午後8時10分に描かれたスケッチである。午後7時55分に警戒警報が発令された後、東部軍情報は4度にわたって敵機侵入を伝えた。以下にその後の空の記



【図6】東京空襲スケッチ 昭和二十年二月二日午後八時十分 照空燈ノ直線美

述を抜粋する。

宵闇の空は一面の星で、西に宵の明星が黄いろに輝いている。照空灯が西に1本、南に1本出て、北からも1本出た。路上に堆く積って凍っている雪の白さに、照空灯の黄色な光が流れる。照空灯は8本になって、光線の尖端が空に浪頭の如くに、雲の如くに、煙の如くに動いている。敵の1機は捕捉された。高射砲が鳴る、「待避」の声々。敵機は白く西南から東北に向かって来る。途中で進路を東に変えて、町の南側を通る。照空灯の光は16本の放射線を組み合わせて、空中に大きく描いた用器画は、今迄に見たことのない正確な直線美だ。其の中央に白煙を引いた敵機は、薄肉彫刻のように白く浮き出ている。これはまたアメリカ製の精巧な金メタルだ<sup>12)</sup>。

米雨は敵機が16本の照空灯に捕えられた時の正確な直線美を、夢中で描いた。午後8時27分に警戒警報が解除されると、ラジオからは長唄「梅の榮」が流れ、家族で聞いたという。蜻蛉に続き、米雨ならではの独特の感性がここにも見られる。

敵機来襲に苛まれながらも、日々の暮らしが続く中で、これらのスケッチは描かれた。だが、2月25日午後3時のスケッチを最後に、日記中からスケッチの描写は無くなるのである。3月6日の日記によれば、2月25日に谷中国民学校へ米軍機による150発の集中爆撃が行われた。戦局が悪化し、より無残な戦禍を目の当たりするにつれ、米雨に心境の変化が起きたことが推察される。

### 3 戦時下の空襲体験

先の大戦において、銃後の人々の暮らしは「防空」とともにあった。昭和12年(1937)7月に日本と中国の全面戦争が開始されると、翌8月に政府は「国民精神総動員実施要綱」を決定し、国民の戦争への協力体制が築かれた。同年10月には防空法が施行される。これは、来たるべき航空機の来襲に備えて地方長官ないし地方長官の指定する市町村長が防空計画を策定し、防空活動を実施するという法律だった。昭和14年(1939)1月に警防団令により警防団が組織されると、各地域で防空訓練が実施される。さらに昭和16年(1941)7月、隣接する5～20戸単位で組織された隣組毎で防火活動を行う隣組防火群が隣組防空群に改組されると、近隣住民同士による防空訓練が行われるとともに、組内の警報伝達や救護の役目なども隣組防空群で担うこととなった<sup>13)</sup>。

昭和16年12月の太平洋戦争勃発を経て、昭和17年(1942)4月に本土初空襲、2年半後の昭和19年(1944)11月から本格的な空襲が開始されると、人々の暮らしは「空襲」に支配されるようになった。焼夷弾の威力の前には、訓練した消火活動も、あまりに無力であった。ラジオから流れる警報と軍情報が、頼みの綱だったのである。

米雨の空襲体験にも、隣組防空群の群長、国民精神総動員に基づく軍事教練、ラジオに傾聴する様などが登場する。以下で、順次紹介する。



第1冊（昭和17年4月18、19、30日、昭和19年1月1日～昭和19年12月7日午後1時35分頃）

昭和17年（1942）年4月18日土曜日の正午、米雨が座敷で新聞を読んでいると、グワーンという大きな唸りが頭上に響いた。

障子がピリピリと鳴った。初めは大地震かと思ったが、そのうちにサイレンが鳴り出したので、さては空襲かと思った。実際「？」である。妻はモンペをはきながら「空襲です。空襲です」という。「左様だ、空襲だ」と初めて気がつく。女というものは、よく気のつくものだ。「早く支度をして下さい」と催促された。だらけた兵古帯を解き、着流しの古袴を脱いで、防空服に着替えて、巻脚絆をつけることは知っている。だが、どうも仕度をする気になれない。[中略] 国民学校の児童の群が、昼飯時に帰る途中、大きな青黒い飛行機が、星のマークをつけていると大騒ぎしたことをM氏<sup>14)</sup>の奥さんから聞いたのは夕方である。ちか子は数寄屋町の家を跨ぐ時に、サイレンが鳴ったと云う。いよいよ空襲が来る!!

この日、日本は初めて本土を空襲された。米軍指揮官の名にちなみドーリットル空襲と呼ばれるこの空襲は、B25爆撃機16機によって東京、名古屋、神戸などの主要都市に実施された。米雨の頭上を飛んだのは1機のみで、直接の被害は目の当たりにしていない。そのため、4月19日と30日では18日の空襲に関する噂話などを記すにとどめ、日記は昭和19年に移行する。

昭和19年1月から空襲が本格的に開始される同年11月までの間の記述は、全5冊中でもっとも家族の暮らしが色濃く描かれる箇所となる。息子由利に届いた徴用通知や嫁ちか子の勤労動員など、戦時下の特徴的な出来事を拾いあげる形で日記の内容紹介をしていくこととしたい。

昭和19年11月に入ると警報が度々発令されるようになる。この11月から昭和20（1945）8月までの間に発令および解除された警報の類は全て、【表1】東京空襲年表にまとめた。以下では空襲スケッチを交えつつ、米雨の空襲体験として主立ったものを抜粋、一部は要約することとする。

昭和19年（1944）

- 2月14日 政府は疎開命令を出す。この疎開について隣組常会を夜開く。
- 2月26日 自発的音楽停止となり、花柳界も三味線を弾かず。そのため、長唄の稽古に行っていた嫁ちか子は終日在宅。
- 2月27日 午前10時、息子の由利は銀行へ出勤。夜、空襲防衛の緊急常会があり、妻出席す。
- 2月28日 花柳界は廃業問題と荷物の疎開と空襲の話とで大変な騒ぎだという。夜、由利が帰宅して、銀行も緊張している。[中略] また小笠原上空で激戦中だという話もあると。急激に事態は切迫して来たらしい。
- 2月29日 政府は決戦非常措置を発表して、花柳界の料亭、待合等の営業を、来たる3月5日から向こう一年間休業を命じた。
- 3月1日 物品税制定の直前で死せる街と化した。

- 3月3日 世間は疎開に夢中になって、雛祭りをする家はおそらくないであろう。
- 3月8日 米雨のもとにA君が徴用免除の嘆願書を頼みに来る。
- 3月10日 A君は免除になった。
- 3月12日 由利に徴用の速達便くる。ちか子直ぐに風の中を飛び出して銀行に届ける。来る15日の出頭、詮衡所<sup>15)</sup>は桜丘国民学校。
- 3月13日 銀行では由利の徴用免除の猛運動が始められ、明日午後1時にT氏と警視庁係官が由利に会見する約束が出来た。
- 3月14日 会見は5分間で終わり、明日詮衡所へ行かなくてよい。その替り17日に警視庁の徴用第1課へ来てくれと言われた。
- 3月17日 朝8時、由利は警視庁に出かける。夜8時、由利帰宅。警視庁では詮衡調査書に記入して、今回は免れたという。
- 4月16日 今日より風呂に紙屑を焚く。燃料漸く不足す。
- 4月23日 M君が臨時召集にて5月1日に富山の連隊に入営する。教育召集らしいが、本人は南方出征と言う。
- 4月26日 隣組では今夜出征歓送会をしようと言って大騒ぎしている。
- 4月27日 R君が日の丸に署名を求めに来る。午後8時半に由利と共にR君を上野駅に見送る。妻はU氏の奥さんと第26隣組を代表してH家の通夜に臨む。
- 5月20日 由利(職場関係者と)神奈川の料亭に飲む。警戒警報鳴り暗闇。折角の宴会目茶目茶。ほうほうで帰宅。
- 5月21日 警戒警報中。
- 5月22日 午後1時半、警戒警報解除。
- 5月23日 新聞を見ると、20日以来の警戒警報は、南鳥島に米機来襲のためとある。
- 6月12日 由利は婦人用の国民服をもらって来たが、ちか子には小さい。
- 6月15日 午後5時半、警戒警報のサイレン鳴る。
- 6月16日 戦闘帽にゲートル巻きで由利出勤。  
N群長は腕章をつけた防空服にゲートル巻きで群内を見回り、拙宅の玄関に腰かけ、茶を飲みながら「いよいよ来ますなあ」と嘆ず。
- 6月17日 ラジオ放送にて敵1機北千島に来襲、2機撃墜さる。
- 6月18日 午後12時50分警戒警報解除、午後9時警戒警報発令。
- 6月19日 朝、由利へ二国教育通知状来る。午前6時半の集合で、4日間図書館前で演習。  
隣組では、持田製薬工場へ婦人勤労隊として働くことになり、第26隣組を代表して、ちか子担当す。午後4時20分警戒警報解除。
- 6月22日 午前6時半、二国教育に由利防空服装(戦闘帽、防空服、巻脚絆、手袋、靴)に握飯持って出勤。弁当持たぬ人が多かったため、一同昼食に帰宅。玄関で握飯を食べ、午後12時半集合。午後4時半帰宅。



- 7月4日 9時警戒警報発令。この時、小麦粉の配給を受け取るために行列していたちか子は防空服を着て帰って来る。小麦粉を受け取ってから、三越に戦闘帽を買いに行く。  
午後5時15分警戒警報解除。
- 7月20日 朝5時のラジオで東條内閣総辞職の放送があったので、私は飛び起きた。これで戦争が済んでくれれば喝采だ。
- 7月29日 ちか子が製菓から帰って来て、強制疎開<sup>16)</sup>の予定地になっている場所を聞き込んで、ここ（米雨の自宅）はなっていないと喜ぶ。
- 7月30日 我が家の近所には、飼い猫、野良猫が7～8匹いるが、2～3年前に比べると著しく痩せた。雀も著しく痩せた。人間の食糧不足が彼等にも及んだのだろう。  
今日のラジオで小磯首相が京都で新聞記者団との会見談を放送した。首相は「本土空襲必至」と力説し、満々たる自信を持って「決戦必勝」を約束(?)した。空襲必至は国民の常識となっている。
- 8月1日 朝7時半から待避壕の手入れを2時間やる。
- 8月4日 午後7時警戒警報発令
- 8月5日 午後12時警戒警報解除
- 8月12日 朝、待避壕の入口の段を広め、壕の内側を掘る。妻がシャベルで土を捲き、私が土を運び出す。1時間ばかりでやめる。暑いので続かない。
- 8月15日 午前8時半から私と妻は昨朝に引き続き待避壕の出口を造る。  
由利は駒込千駄木町にある在郷軍人会に点呼の件を問い合わせ、一旦帰宅して出勤。
- 9月11日 第1回在郷軍人会の暁天動員<sup>17)</sup>。午前4時半集合。由利出勤。午前5時40分終了帰宅。7時出勤。
- 9月19日 午後12時半、警戒警報発令。午後1時10分、警戒警報解除。
- 9月21日 第2回在郷軍人会の暁天動員行事。午前4時半集合、由利出勤。午前5時半終了帰宅。
- 10月1日 第3回在郷軍人会の暁天動員行事。午前4時半集合、由利出勤。午前6時終了帰宅。
- 10月11日 第4回在郷軍人会の暁天動員行事。午前4時半集合、小雨が降っている。由利出勤。午前6時終了。
- 10月16日 今朝の各新聞は、昨日発表の戦果を大々的に掲げて、真珠湾記事以来の賑やかさで、中には「全太平洋戦の追撃戦に移らん」と書いてある。  
午後3時のラジオで、台湾東方海面の戦果発表。  
午後4時半のラジオで、比島東方海面の戦果発表あり。
- 10月21日 第5回在郷軍人の暁天動員行事。午前4時半集合、由利出勤。午前6時終了帰宅。
- 10月23日 隣組、下駄と鼻緒のくじ引き配給あり。
- 10月26日 煙草屋の行列に今日が最後で、来月1日から隣組配給（1日分6本の配当）となるので、このお名残行列に、妻とちか子は5時起き、私と由利も6時に起きて朝食を済ませ、行列に並ぶ準備〔中略〕これは恐らく東京都民全体の騒ぎだ。最早煙草は人間の嗜好品ではな

くなって、必需品になっている。

午後5時のラジオで、大本営午後5時発表、比島東方海面の戦果追加発表。

10月27日 午後3時のラジオで、成都の米軍基地を急襲せる戦果と、比島レイテ湾敵艦隊の撃破、炎上、敵陣地の炎上、大爆発等放送さる。

今日はアメリカ海軍記念日で、太平洋の大勝利に酔うつもりであつたらしい。目算外れて、ルーズベルトも悄然たらん。

11月1日 第6回在郷軍人会の暁天動員行事。午前4時半集合、由利出動。午前6時終了帰宅。午後1時20分空襲警報発令。サイレンが警戒やら空襲やら、一寸聞き取れなかった。突然の空襲で町は、いや全都合は大変な騒ぎだ。だが、昭和17年4月18日の空襲以来、「敵機が退去してから、サイレンが鳴り」と川柳もどきに皮肉られているだけあって、今日のサイレンも敵機が通った跡じゃないかと思われなくもなかった。[中略]高射砲が遠くに聞こえる。突然の空襲警報に誰もがあわてた。

11月5日 午前10時警戒警報発令。続いて空襲警報発令。

東部軍情報の第一声を聞く。(詳しくは第2章「資料の構成と特徴」参照)

11月22日 夜のラジオで「昨日九州西部に来襲の敵B29機は、更に18機を撃砕して、合計63機撃墜破せり」と放送あり。

11月24日 正午警戒警報発令、午後12時10分空襲警報発令。ラジオ、東部軍情報。妻とちか子は避難袋を肩にかけて待避壕に入る。午後3時10分空襲警報解除。家族達は3時間の待避壕生活だった。直ちに夕飯の支度に取り掛かる。夕飯を食べ終わるか終わらないうちに、ラジオの東部軍情報。午後5時15分警戒警報解除。

午後7時のラジオで「今日の空襲で敵の3機撃墜。我らの損害軽微」と発表された。「あの魔物は果たして追撃されたろうか」この疑問は私だけではない。

11月29日 午後11時27分警戒警報発令。11時40分空襲警報発令。ラジオ「ダイ デイー東部軍情報、



【図7】 東京空襲スケッチ 昭和十九年十一月二十九日夜十一時半 日本橋方面ノ焼夷弾落下ヲ望ム



【図8】 東京空襲スケッチ 昭和十九年十一月二十九日夜十一時五十五分 神田方面 火煙

敵の1機及び少数機は、東南方洋上より侵入しつつあり」雨の待避壕入りは甚だ困難である。[中略] 私は空襲サイレンと同時に門前へ出る。見ているうちに、東南へかけて空が真紅になった。また南から西へかけての空が真紅になった。畜生！ 雨の夜の焼夷弾攻撃だ。高射砲がドンドン鳴る。私は群長と真紅な空を睨んで地団駄踏む。[中略] 火の手から見て敵の戦果は大きいらしい。残念だ。今夜が東京初の夜間爆撃である【図7・8】。

12月1日 第9回在郷軍人会暁天動員行事。午前4時半集合。由利出動。参加人員少数のため中止になる。最早空腹を抱えて「イチ、ニイ」とやる閑人はいなくなった。

葉書を出しに行く。ポストに「通信防諜」という見出しで「空襲の状況、被害の状況を書いてはならぬ。被害の善後処置を書くのは差し支えなし」という意味の貼り紙がしてある。

12月2日 朝8時半頃八百屋甘藷の配給あり。

9時に私は文展を観る。文展も「文部省戦時特別美術展覧会」と冗長たらしい名称になって、「戦時特別」の4字が挿入され、主催文部省、協賛情報局、陸軍省、海軍省の名を連ねて、戦時態勢で会期は例年より10日間短縮された。

12月4日 午後5時のラジオで「昨3日来襲の敵機21機（昨日発表の15機を含めて）撃墜」と発表。

12月7日 午前1時35分警戒警報発令。1時50分空襲警報発令。ラジオ、東部軍情報流れる。

午前3時15分警戒警報解除。[中略] 雨の止んだ暗い門前で群長と話す。群長「1日2回も来られては面倒ですな。いや、神経衰弱症もゲリラ戦の手ですな」「全く」[中略] 会話は唯一の慰安である。

## 第2冊（昭和19年12月7日午後5時50分～昭和20年1月31日）

第2冊は、昭和19年11月に引き続き、敵機の来襲が続く日々となる。米雨はその独特の感性から、夜空に浮かぶ照空灯を仏画のようだと捉えてスケッチしていく。1月には尺八奏者など、予てより米雨と親交のあった人物の訪問がある。

12月8日 今日は大詔奉戴日満3周年記念日である。真珠湾の復讐戦をやるだろうというので陸海空の警戒怠らず、民間の防空陣も空ばかり睨んでいる。在郷軍人会の暁天行事（訓練）も、大政翼賛会主催の陸海軍軍楽隊合同音楽会も、技術院の授賞式も、何もかも取り止めとなり、緊張一色に塗りつぶされた。

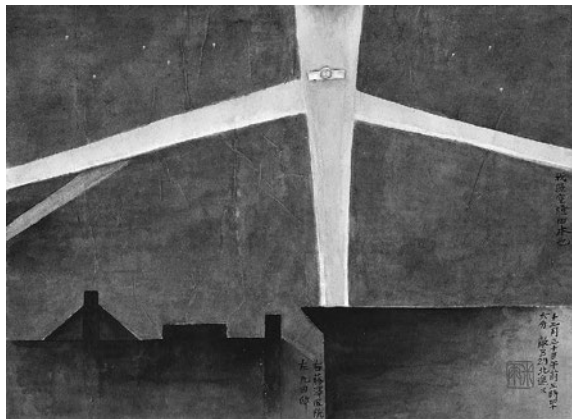
12月10日 午後8時5分空襲警報発令。米雨は敵機を大蜻蛉や白鳩に例える。灯火管制の下で、スケッチに色を塗った。（詳しくは第2章「資料の構成と特徴」参照）

12月30日 午前1時警戒警報発令。東部軍情報。午前2時39分警戒警報解除。

午前3時35分警戒警報発令。東部軍情報。敵機は照空灯の光線のなかを銀色の大蜻蛉になって、南から私の頭上目がけて飛んでくる。半鐘が叩かれ、高射砲が鳴り「待避」の音が連続する。[中略] 銀色の大蜻蛉は青金色の小鷹になった。[中略] 午前4時3分警戒警報解除。解除と同時に、私は公園へ走った。自治館の横にいくと、四辺は焦げ臭い。ハンケチ



で鼻を押さえて5～6人が駈けて行く。見晴台に上ると、十数人の防空人が柵にのしかかって見ている。正面の1番近い火が最も猛烈で、燃えさかっている。この火が上野の森を墨絵の木版画に見せたのだ【図9・10】。



【図9】東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三十日  
日午前三時四十六分 敵B29北進ス



【図10】東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三十日  
日午前四時二十分 敵B29ノ焼夷弾投下ニヨル三個所ノ火災ヲ望ム

#### 昭和20年 (1945)

1月7日 普化尺八の谷狂竹君<sup>18)</sup>が満洲より帰って、初めて訪問された。防空服にモンペをはき、分厚な地下足袋。満洲で手に入れた黒羅紗の防寒外套に、襟巻、戦闘帽、防空頭巾、肩に頭陀袋と避難袋を掛け、腰に二尺八寸の尺八袋で普通人には背負い切れない。毎年正月に「阿字観」と「虚空」を吹いてくれるのが例であるが、今夜は管制の玄関で手探りに茶を啜る。〔中略〕夜9時狂竹のスケッチ成る。

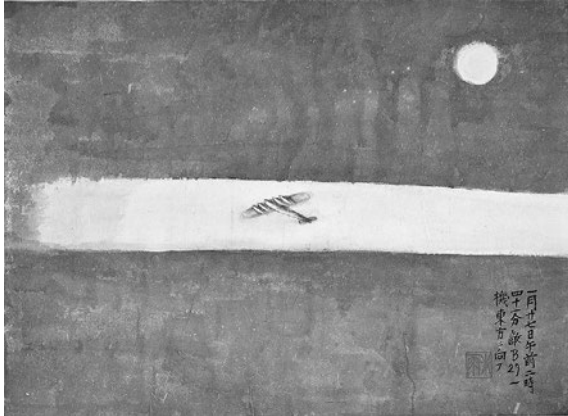
1月10日 午後8時12分警戒警報発令。8時15分、34分、40分、44分、46分東部軍情報。「敵機は間もなく帝都に侵入すべし。高射砲射撃することあるべし」照空灯は東西南北から照射して敵機を索めている。帝都の上空は青白い炎の渦を捲いている。新技巧派の装飾画だ。また、この立体的な炎と渦は、仏画に見える火焰だ。仏画の取り入れた構図は、自然現象の写生である【図11】。



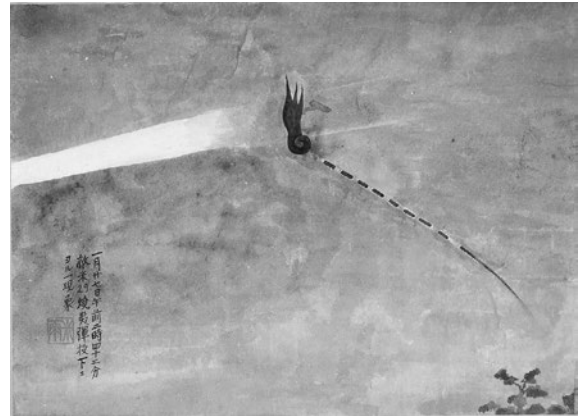
【図11】東京空襲スケッチ 昭和二十年一月十日  
午後八時四十分 照空燈ノ壮観

1月27日 午前2時19分警戒警報発令。2時22分、25分、28分、33分、36分、40分、東部軍情報。敵機の爆音が西から響いている。照空灯射し、高射砲鳴り、「待避」の声々起る。月は余程西に廻ったが、なお昼のように明るい。

敵機は月の下を照空灯に捕捉されながら東に進む。私の頭上を通る時に、私は仰向いて敵の腹を見た。金色のガラス細工のオモチャは、胴の左右に赤と白に彩られた4つの魚（発動機）が頭と尾の辺に翡翠の玉を象嵌している。[中略] しかもその1分後には私に素晴らしいものを見せてくれた。それは地藏さまの森の上で進路を東南にとった途端、敵機の胴体から現れた火の数珠である。数珠の頭は3つの炎に割れて、胴に右巻きの渦を彫刻している。仏画の荘厳そのものである【図12・13】。



【図12】 東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日  
午前二時四十一分 B29一機東方二向フ



【図13】 東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日  
午前二時四十二分 敵米29焼夷弾投下ニ  
ヨルー現象

1月31日 片山榮衛氏<sup>19)</sup>、南方から帰られた挨拶に来る。ジャワ製の水牛の革の葉2枚下さる。[中略] 氏の内地帰還の第一印象は、汽車が荒野を走っている気持ちであったこと、東京に着いて、若い男女の顔が、青く、痩せて、皺が深く刻まれているのが目立ったこと、この2つであると云う。談話中、スケッチを書く。

### 第3冊（昭和20年2月1日～昭和20年5月7日）

第3冊では、米軍機による大爆撃により東京は焼野原となる。九死に一生を得たものの、食糧が決定的に不足した状態である。そのような状況にあって、米雨一家もいよいよ疎開を考え始める。

2月1日 午後5時のラジオ「従来の4軍管区制が新たに6軍管区制に改編されて、来る2月11日から実施される旨」の放送あり。ルメー<sup>20)</sup>は都市爆撃の好きな男だから、桜木町も今までは無事だったが明日はどうだろうか。

2月3日 正午のラジオで「昨夜9時、敵B29 1機は、帝都に投弾。また1機は、今暁零時半、名古屋附近に爆弾を投じて南方に逃走した」と。近頃、敵機の東京来襲の数の減じたのは、マリアナ基地から比島方面へ行っているからだという。数に限りがあるから、然うであろう。しかし、またマリアナ基地のB29はその後増強されたという。

2月4日 午後7時のラジオ「大本営発表、本日午後敵B29約100機、主力を以って神戸市に、一部

は三重県下に来襲。若干の被害あり。戦果は目下調査中」と。

2月9日 明後日11日午前0時から、新しい軍管区制が実施されるので、空襲地図を書き改める。

2月11日 紀元節。午前0時から6管区制実施  
さる。

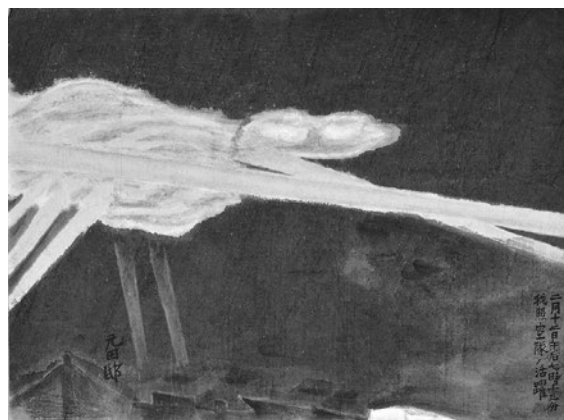
午後3時のラジオ「大本営発表、昨  
10日約90機の関東地区来襲に対し、  
撃墜15、他の相当機数に損害を与え  
たり」と。

2月12日 午後7時のラジオ放送中、突然ダイ  
ダイが鳴って「東部軍管区情報、敵  
少数機、南方海上より静岡地区に侵  
入せり」ニュースが続く。[中略]  
7時13分「ダイ ダイー東部軍管区  
情報、敵は西南方より京浜地区に侵  
入しつつある」照空灯が西から東に  
向かって数本照射された。敵機はど  
こにも見えない。[中略] 7時25分「  
ダイ ダイー東部軍管区情報、関東東  
部を旋回中なりし敵は鹿島灘より東  
方洋上に退去しつつある」午後7時  
28分警戒警報解除【図14】。

2月17日 午前9時47分空襲警報発令。9時55  
分、10時、東部軍管区情報。高射砲  
西空に盛んに打ち出され「待避」の  
連呼。雲と砲煙の夥しい西空に、敵  
の5機が朝日を受けて白く小鳥に見  
える[以下略]【図15・16】。

2月27日 朝、雪道を踏んで、神明町のG氏を  
見舞う。避難先不明。訊くべき家も  
ない。一面の焼原なり。まことに軍  
当局の希望しているように、東京3  
分の2の焼野原は既に実現しつつあ  
る。程なく全都焼野原となるべし。

3月2日 どの列車も罹災者と避難民と疎開者  
の激増で、死に物狂いの大混雑。列



【図14】 東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十二日  
午後七時十三分 我照空隊ノ活躍



【図15】 東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十七日  
午前十時五分 艦隊機群ト其撃墜



【図16】 東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十七日  
午前十時三十五分 敵艦隊機編隊ヲ射撃スル我高射砲ノ煙ハ恰モ七機編隊ノ飛行機形ヲ激撃スルニ似タリ奇也



車の屋根まで人が乗っている。節句雛を飾る。桃の花も、菜の花もない。

- 3月3日 朝10時、仲御徒町の焼け跡を見舞う。立退先の看板もなく、人影もない。いまだに焼けたままである。
- 3月5日 大通りを疎開の荷物を積んだトラックが傾きながら行く。電車停留所には乗客が長蛇の列をなして、電車は来ない。ガスも、電気も、水道も来ない家では、水貫いに狂奔している。その中を口頭の軍情報が「敵大編隊の来襲」を告げる。人々の顔色が一斉に変わる。私は度胸をきめて歩きつづける。「今の情報は取消し」と注進され、怒声罵声が渦を巻く。[中略] 無秩序甚だしく、敗戦の様相を露呈した。
- 3月6日 去る25日に谷中国民学校を窺って150発からの集中爆撃をしたのは、学校で何か電波の仕事をしていたので、附近の住民は航路が此方に一定したのは変だと思っていたが、ここで何かやっつけようとは誰も知らなかった。[中略] 谷中国民学校の爆弾による附近の死傷者は1千名以上で、今なお発掘中である。東京空襲以来、第一の惨害であると太鼓判が捺された。
- 3月9日 午後10時30分警戒警報発令。ラジオの軍情報は「B29各1機ずつ3機が、東南方洋上から、房総半島海岸線附近を旋回中」と言うので、防空陣がそれを聞いていると、敵機は頭上を東側と西側の二方を南から北に飛んで、焼夷弾をばら撒いた。誰もが唾然とした。近頃の軍情報はこの通りだから、私は情報を聞くより、空を見ていると言うのである。空は赤くなって来た。
- 3月10日 午前0時10分頃空襲警報。間もなく南が火、西が火、東が火、やがて北も火、東西南北悉く火と煙で、東桜木町も火になり、地藏さま（浄名院）の大椎木の頭も火の粉を冠って燃え出したので、わが隣組もポンプで消火につとめる。ちか子は10個もの風呂敷を造って防空壕に運び、由利は大椎木の消火にかけつけている。敵機は次々に飛んで来て目が離せない。[中略] 午前2時35分空襲警報解除、午前2時27分警戒警報解除。既に電灯消え、ラジオは黙しているので、警戒警報の解除は、警察署から町会へ連絡があつて、各隣組へ口頭伝達された。火は盛んに燃え続ける。東桜木町は大半焼けた。勧善院、津梁院、養壽院、眞如院など寛永寺中の寺々も悉く焼けた。[中略] 寒風灰塵を捲いて、屋内屋外の差別なし。障子の切張りをする。瓦斯も電気も来ない。電話も不通。町の情報によると宮城（皇居）も焼け、丸ノ内も火の海だった。浅草観音堂、五重塔も焼けて形をとどめず、数百羽の鳩も残らず焼死したという。
- 3月13日 隣組の2、3軒から米を貸してくれと申し込まれる。貸したきは山々なれど米一粒もない。残念である。[中略] 夜、由利は上野駅の様子を見に行く。罹災者の乗客で、北は車坂、南は広小路から松阪屋横まで、それぞれ長蛇の列で、駅の入り口は人の山で塞がって入ることが出来ない。駅員の話によると、この長蛇の列は一両日で収まる見込みとのこと。罹災者以外の乗客の切符は売らず、罹災者のみは無賃乗車させている。[中略] 但し罹災証明書を持つ者に限る。

- 3月18日 制空権も、制海権も、最早敵の手中に在ることを、鈍感なわれわれ都民も意識した。K運送店主人を始め、事情に明るい人達は、異口同音に地方転出許可証を取っておくべきで、汽車に乗ると否とにかかわらず、最も必要であると注意された。
- 3月21日 正午のラジオで「大本営発表 硫黄島の玉砕」放送さる。アナウンサーの声は無表情。聴者もひとしく息気を呑む。日本の命運もきまった。次は沖縄、その次は本土と筋書は明瞭にわかっている。〔中略〕硫黄島に基地を推進して、B.P.艦上機など思いのままに空襲すれば、本土は焼野原で国民は全滅である。もし日本人を根絶するのがルーズベルトの世界政策（ニュー・ディール）であれば、鶴沼に越したところで無駄である。
- 3月22日 朝6時頃朝雨止む。由利自転車で出勤。銀行から通勤許可証を取って来て、人員疎開申告書に添えて市役所に提出した。
- 3月23日 午後4時のラジオ。突然軍艦マーチ起り「大本営発表。四国方面来襲の敵機動部隊に与えたる総合戦果、空母、戦艦、巡洋艦等合計11隻撃沈」と。敵が沖縄本島の攻略を目指して、機動部隊を四国方面に繰り出したのは、本日が最初である。沖縄が危ない。
- 4月13日 2～3日前から鶴沼行を予定していたので、握飯弁当を携え、妻を案内す。（5人暮らしの家族が暮らす鶴沼の家を訪ね）上野桜木町が強制疎開になれば車の都合次第で荷物を運んで来る。その時は2人くるか4人くるか荷物と人間が同時にくるか、別々にくるか突然になることを承知してもらいたいと告げた。
- 午後4時5分に帰宅。玄関をあがると、ちか子から大きなニュースとして、ルーズベルトが脳溢血で死去したことを知る。
- 4月21日 朝8時、K君を見舞う。西大久保一面の焼野原に見当を失う。漸く焼残の一隅に避難先（弁護士宅）を探し当てる。K君は留守、奥さんに見舞いを述ぶ。
- 4月22日 空襲下の鶴沼の現状を知る必要があるから、朝6時半、ちか子を連れて鶴沼に向かう。〔中略〕鶴沼にも空き家はない。食糧は不足している。農家ばかりが景気がよい。町は火が消えたように寂しい。
- 4月25日 午後7時のラジオで「昨日立川及び静岡、清水方面に来襲したB29 120機に対する邀撃戦果は撃墜13、撃破33、合計46機で、約4割近い戦果をあげた」と放送。これ新兵器の威力によるか。新兵器に期待する向きが甚だ多い。
- 4月26日 今朝の新聞に「世界注視のサンフランシスコ会議、25日を初日として開催さる。ルーズベルト急死し、トルーマン大統領の未知数の手腕と、ソ連モロトフ氏の出席が、いかなる波乱を巻き起こすか、米英とソ連の根本的政策の相違が、会議の暗礁であり、興味である」と。
- 4月27日 朝8時頃、ちか子と東照宮化灯籠の茶見世にトコロテンを食べる。若葉のみどり増して、つつち咲き初む。初夏のすがすがしさ。灰燼の東京にこの美しさあり。
- 4月30日 ヒトラー総統 ベルリンの総統大本営にて戦死すと外電は伝う。大独逸亡ぶ。
- 5月5日 端午の節句。桃の節句は世間が空襲におびえていて、人形を飾るのも躊躇されたが、この頃はだいぶ空襲に馴れて落ち着いた。しかし、柏餅もない。ちまきもない。軒の菖蒲もな

い。菖蒲湯もない。鍾馗の掛け物をかける。

5月6日 午後3時のラジオで、東郷外務大臣は新聞記者団と会見して、日独国交に関する説明をした。

5月7日 一にも二にもヒトラーの尻馬に乗っていたことは日本の破滅であった。ところが一夜にして、世間は「アメリカと戦争するのは誰のためにもならない馬鹿げたことだ」という良識を取り戻した。[中略] 最早日本は誰に気兼ねすることなく講和の途を選ぶべきである。これを公然に言えば殺されるにきまっている。ここに書き残す分には差し支えあるまい。

#### 第4冊（昭和20年5月8日～昭和20年7月18日午後3時49分）

第4冊では、いよいよ敗戦が濃厚となる中、米雨一家は日々空襲への恐怖に晒され続ける。警報がほぼ毎日発令され、日記の多くがラジオから流れる防空情報で占められた。また、米軍機が撒いたビラを拾った人々は、そこに書かれた大空襲の予告に戦々恐々とする。

5月8日 ドイツ無条件降伏に調印終わる。この日を以て米英は「欧洲戦勝利の日」となす。トルーマン大統領は、勝利の声明中に、来る五月十三日を「祈念の日」と指定した。

5月9日 午後7時20分ラジオ「独逸降伏による帝国政府の声明発表せる」を放送。

5月14日（追記）午前8時20分、敵大編隊の一斉爆撃に遭った名古屋城は、本丸御殿、天守閣、清正石ノ門、東北角櫓、城中の壁画を始め悉く灰燼に帰し、疎開のため引き卸し作業半ばの雌雄一対の金の鯨も焼失。既に他に疎開されていた国宝級の絵画、その他の美術品は無事を得た。

5月18日 午後3時のラジオで所要残留者の範囲に就て報道あり。空襲下の国土防衛、必勝生産体制の確立を図るために、人員疎開について、所要残留者の範囲を明確にして、これらの人達の地方転出を抑止し、場合によっては国民勤労働員令の徴用規程を活用する。

5月21日 正午30分頃、敵機が帝都に侵入して、神田岩本町に焼夷弾を落としたが、あたりは焼原だったので火事にならなかった。その際、ビラを撒いた。そのビラには大きな手が描いてあって、この手は日本軍部を意味して「支那事変もこの手が勝手に起こしたもので、陛下の御裁下を経ていない、日本国民が今日のような惨めな目にあっているのも、この手のためだ」というようなことが、拙い日本語で書いてあるという。女の文章らしいという。日本の女が敵側に雇われて忠勤を励んでいることは想像される。またビラには「5月23日に東京を大空襲する」と書いてあるという。

5月23日 由利によれば、一昨日敵機の撒いたビラに「23日、大空襲」とあるのを見た人の中には東京から逃げ出している者もあるそうだ。彼らに嘘がないなら必ず来る。

5月24日 午後5時のラジオ「大本営発表、敵B29約250機は、主として帝都に侵入、宮城御苑内御茶屋及び赤坂離宮御構内の附属建物1棟焼失せり。戦果中、今まで判明せるもの撃墜27機、撃破30機なり。——敵は210機の主力をもって帝都に40機の一部をもって静岡地区に来襲したもので、各所に火災を生じた」と。



夜、由利が銀行から帰っての報告に「今日は省線<sup>21)</sup>、都電、地下鉄など足が一切止まったので、自転車で駆け廻った〔中略〕今回は一定の場所を目がけて投弾したものでなく、散発的に所々方々に投弾して、火が広がっていったようだ」と。

5月31日 昨日(29日)〔ママ〕横浜の空襲に際し、高田馬場方面に敵機の撒いたビラの文面には「今度の戦争は、軍と政府が勝手にやったもので国民諸君の知らないことで、現に大変な苦しみにあっているのは気の毒だ。アメリカは決して国民諸君を敵としていない。戦いが終わっても、諸君を奴隷扱いしないから安心してください。この戦争の結果は判っている」という意味の日本語を毛筆で書いた印刷で、マリアナに捕虜になっている日本人が書かされているのだらうと想像されている。このビラは1万枚から撒かれたもので、憲兵隊は血眼になってビラの押収に躍起になっているという。また昨日のビラには「来月6日にまた来るから」と書いてあって、これは平塚方面にも撒かれたという。

6月2日 昨夜半から停電、便所へ行くにも手探り。今朝になってもまだつかない。〔中略〕10時45分に電気が来た。

6月6日 今朝の新聞には「沖縄の玉砕は必至の状態に立ち至り、本土に敵を邀撃する重大な局面に直面した」とある。

6月16日 朝6時20分起床。今朝の新聞では、相変わらず掛け声は大きい、掛け声で戦争は勝てない。こんな戦争は早くやめるべきである。決して厭戦気分でない。国民真実の声だ。

6月21日 新聞を読んでいると、遠くでラジオの防空放送の予知音がダイダイ聞こえたので、スイッチを入れる。午前10時の時報が鳴ってから「ダイ ダイ——東部軍管区情報、伊豆半島のB29 1機は南方海上に退去せり。甲駿地区警戒警報解除——只今10時1分であります」今日から警戒警報も、空襲警報と同様に、甲駿地区、長野地区、東京地区、千葉地区というように地区別に発令、解除が施行されることになった。

6月25日 午後3時のラジオで大本営発表の沖縄戦況を放送。いよいよ皇軍の玉砕を覚悟する。

7月9日 夕刻、由利は今日銀行で「空母等の20隻、テニヤン島方面より北上」との報が某工場に伝達されたこと、またお得意先から「明朝、艦隊機の来襲があります」と聞かされ、緊張して帰宅。

7月14日 新聞によれば左の如し

- 1、12日朝、B25が40機、小型140機、計180機は、九州の鹿児島、宮崎両県、大分県の各飛行場、及び四国の西方地区を襲撃した。
- 2、12日夜11時より翌13日午前2時に亘って、B29 140機は、伊豆地区、京浜西南方等の各方面に分散して来襲した。
- 3、右の140機のうち50機が京浜方面へ来襲したもので、京浜の一部に焼夷弾を投じて、火災を生じた。

第5冊（昭和20年7月18日午後3時50分～昭和20年9月22日）

第5冊では、さらなる激しい空襲と人類初の原子爆弾投下の惨禍を経て、ついに終戦を迎える。米雨一家は空襲から解放される。しかし、最後には進駐軍の管理下に置かれることに緊張感を覚える米雨の不安が綴られている。

7月20日 8時19分に警戒警報のサイレンが薄く鳴る。爆音が近づく、8時20分に、ズシーン。ガラス戸がピリピリと響いた。爆弾投下だ。近所の人達は一斉に戸外に飛び出した。南の方に爆弾を落としたんだ。何処だろう。

由利の話によれば、「今朝の爆弾投下は、250キロのもの1個を、東京駅東側の川の中に落として、八重洲口で切符を買う行列の中から死者4名を出し、負傷者はトラック1台で運んだ。構内の電車はガラス窓が減茶減茶に壊れ、駅員の女の子が、ガラスの粉をチャラチャラ掃いていた。外へ出ると、東京駅をはじめ丸の内ビルの窓ガラスは、どこも減茶減茶で街路一面ガラスの粉だらけだった。銀行も自分の椅子の後ろのガラス窓の一個所が粉微塵になった。調査室の掛け時計は跳ね飛ばされていた。今少し早く出勤すれば怪我をしたかも知れない」と。

7月26日（追記）今日、7月26日は、ベルリン郊外のポツダムで米英蘇3国の首脳者によって決定した歴史的なポツダム宣言の発出された日である。このポツダム宣言こそ、日本への最後通牒である。

7月29日 新聞によると

1、昨28日午前9時45分頃から午後1時まで京浜地区周辺に対する空襲はP51 240機で、内訳左の如し。

第1波100機は土浦、千葉方面等、

第2波100機は第1波と同様に土浦、千葉方面及び埼玉、熊谷、宇都宮方面等、

第3波40機は太田、桐生、館林、八王子、立川、帝都、神奈川方面等であった。

2、28日午前5時50分頃から午後3時まで艦上機980機で内訳左の如し。

第1波約260機（或いは520機とも）は、中国地区、主として瀬戸内海沿岸、島津半島附近を攻撃。この第1波の中の約90機が東海軍管区内に侵入。

第2波約300機（或いは200機とも）は広島湾、瀬戸内海沿岸を、

第3波約130機は、阪神地方、広島附近、島根、鳥取附近を攻撃した。

3、28日、鈴木首相は記者団と会見して、ポツダム最後通牒は何等重大価値あるものにあらず、したがって政府はその内容を発表せずと言明した。

8月6日（追記）今日、8月6日午前8時過ぎ、B29 2機は、広島市に新型爆弾を投下。1発の新弾15万人を殺したとの噂あり、塵埃と黒煙は天を掩い、各所に火災を発生、全市焦土となる。某博士は、この新型爆弾に疑問を持ち、遭難した某陸軍中佐は、防空壕で防げると豪語したが、これらの新聞記事を信用するものはなく、戦争の前途に誰もが絶望した。

○

8月6日広島市を全滅に帰した新型爆弾は、原子爆弾で、1発にして死者19万を出し、一瞬にして「ヒロシマ」の名を全世界に知らせた。

8月8日 (追記) 今日、8月8日 [9日の誤記]、B29は長崎市に新型爆弾を投下、市内廃墟と化す。ラジオも新聞も殆ど沈黙を守っているかの如し。この新型爆弾も、広島と同様の原子爆弾で、世界初めてアメリカが広島と長崎両市に試みたもので、向う75年間は、両市とも人類は勿論、植物も生育せずと言はる。アメリカでもその調査員を送りたくとも、調査員が現地に踏み込めば死ぬので、調査も不可能であると。ああ日本は科学に敗れた。

○

今日、8月8日は、ソ連がポツダム宣言によって、日本に対して宣戦布告をして、参戦した日である。ソ軍満洲に侵入す。

8月9日 午後2時のラジオ「ソ連軍が満ソ国境を侵犯、不法発砲し、また飛行機が北満、朝鮮に侵入して投弾した」と放送。

8月15日 (玉音放送) 午前7時20分、ラジオ「慎みてお伝え申し上げます。畏きあたりに於かせられましては、詔書御煥発あらせられ、本日正午、天皇陛下御親ら御放送遊ばされますー」アナウンサーは泣いているようだ。聴く方も蕭として息を呑む。旭日はうるんでいる。防空放送は続く「管区内に侵入せる第3波は30機にして、第1波、第2波、第3波の合計は190機なり」(この放送7時40分)「本日来襲の敵機種はF6F、F4U、S2Bの3種なり」。午前10時、ラジオ「有難き御放送は正午でありますー有難き御放送に引き続き政府の重大放送が行われますー」。

午前11時55分になった。集まった者、Nさん母子2人、F氏奥さん、U御夫妻に令嬢の3人、Kさん、それに私と妻とちか子の3人。正午の陛下の玉音を謹みて拝す。「身を以て1億国民を救う」との聖慮、誰も顔をあげない。ラジオの音が低くなった。Uさんはラジオに縋りつく。玉音は終わった。[中略] この桜木町は、われらの家は、護りとおしたという喜びが悲涙の中にも流れた。2時に隣組の米とパンの配給があるので、Uさんのリヤカーを引き出した。隣組の婦人達は出かけた。これはわれら神の子の更生の第一歩であった。今日の昼に、日の丸の標識をつけた飛行機がブンブン飛んで来て、日本橋の上空に宣伝ビラを撒いた。その文句に「今日まで戦って来て置いて、戦争をやめるなんて、そんな馬鹿はない。自分達はどこまでも戦うから、皆さんもその積もりで頑張って呉れ」という。このビラはTさんの知り合いの婦人の弟が拾って持っている。私の恐れるのは、こういう狂人だ。

8月16日 昨夜は空襲のなくなった第一夜を味合う積りで寢床に入ったら、そのまま寝てしまった。ふと目がさめたら、今朝の5時だった。妻も由利もちか子も今朝までグッスリ寝て、何も知らなかったという。何も知らずに寝たのが、空襲のなくなった第一夜の自然な、神の子に還元した幸福である。



午前10時5分、警戒警報発令。右は停戦協定が成立するまでの戦闘行為に属するものであるから、投弾はしない。それよりも狂人が恐ろしい。

九十九里浜から、ほうほうの体で帰って来た少年の話に、15日には九十九里3里の沖合に、アメリカ艦隊が並んで、艦砲射撃の態勢をとった。海が見透かしだから能く見える。日本軍も海岸に大砲を並べて対峙し、住民は銘々竹槍を持たせられて、無気味な空気の中に時間は経過して、正午近くなるとアメリカ艦隊は一斉に引き揚げた。それから天皇陛下の御放送があったので、それまでは、いつ上陸されるか、撃たれるかと、生きた心地がなかった。この話は根津の靴屋夫婦が少年から聞いた話であった。

8月17日 夜Hさんが心配顔で来て言うに「連合軍が進駐すると、掠奪暴行を逞めるから、今のうちに女子供は逃げた方がよいと、軍需省では内部の人達にお達ししたというが、逃げた方がよいか」との相談である。成程、浦和でも15日から組長が戸別訪問をして、食糧を奪われるから隠せ、女子供は早く逃げ出せと大騒ぎをしているという。[中略] 私はアメリカ司令長官を信じている。「Hさん、その心配はご無用です」と冷然と答えた。

8月18日 午前11時37分警戒警報発令。「B29 1機は、静岡地区より伊豆北部を経て、京浜西南方に侵入、11時37分頃、富士山東方にあり」「伊豆北部より京浜西南方に侵入せる敵は3機にして、B29 2機とB24 1機とにて、11時45分頃平塚附近にあり」「京浜西南方の敵は、目下富士山東方を旋回中なり」(この放送11時50分)「B29 2機は群馬地区に侵入しつつあり」(この放送11時50分) … (以下略) …偵察飛行は今後しばしば続くという。この情報放送を最後として防空放送とお別れする。

8月20日 庭の防火壕を埋める。埋蔵した衣類を始め全部無事。

8月25日 今日はアメリカの部隊が横須賀に入港する日である。将来、三浦半島、湘南一帯、伊豆半島にかけて、アメリカの基地となる場合に、折角、鶴沼に引っ越しても、また立ち退くことになる。これは思案してからでないと飛んだ目にあうかもしれない。

8月26日 今日はアメリカ軍隊が横須賀に上陸する。厚木飛行場にはアメリカ空輸部隊が着陸する日だ。正午のラジオで「アメリカ軍隊の横須賀上陸は28日に延期になった」と放送。アメリカ軍隊の上陸で湘南一帯、今にも殺されるかと騒いでいる。鶴沼もさぞ怖毛をふるっているだろう。

8月27日 朝8時から門内の待避壕を埋めたあとに、地盛りして畑地にする仕事に、私と妻はひと汗かく。アメリカの先遣部隊が2日遅れたのは台風のためである。今一つの理由は、日本の港湾や道路があまりに狭隘なので、部隊の行動がとれないので計画の模様替えをしなければならないので編成変えに手間取ったのであるという。

8月28日 アメリカ先遣部隊厚木に到着した。

8月29日 空腹になる恐ろしさ。2、3日は動かない計画だ。アメリカ飛行機が相変わらずブンブン飛んでいる。目のくらむような蒸し暑さだ。

8月30日 今日午前10時からアメリカ進駐部隊が横須賀に上陸する。横須賀鎮守府では、そのため午

前9時から正午まで市民の外出と一般通行人の通行を禁止し、また省線電車も横須賀、久里浜間の運転を中止する旨放送。

8月31日 帝国在郷軍人会解散す（ラジオで放送）。

9月2日 午後3時のラジオで「今日午前9時、横浜沖合11キロに碇泊中の米国戦闘艦ミズリー号の上甲板で日本降伏文書調印式が行われた」と放送。大東亜戦争は正式に終結を告げたのである。トルーマン大統領はラジオ演説を行い「原子爆弾を発明し得る自由な民衆は今後に横たわる一切の困難を征服出来る一切の精力と決意を使用することが出来よう」と結び、9月2日を以て「対日戦勝利の日」（VJデー）と宣言した。

バーナード・ショー翁は、原子爆弾に就いて言った「世界の」戦争は終わった。しかし向後われわれは、その爆弾を使う権利があるか、どうかは疑問である」と。しかし、私は実際には原子爆弾を使う戦争が残されているように思う。アメリカは必ずかかる戦争を防止することに全力を画すであろうことを信じている。しかし、武器で護られる平和は真の平和ではない。

9月8日 米軍、帝都初進駐。

9月13日 大本営廃止。従来軍の発表がイツワリであるという国民の怨嗟をなだめるために、空襲時から、大本営発表によって帝国の勝利を国民に確信させようとしたが、国民は最早大本営を信じなくなった。軍部は自らの手で大本営に泥を塗ったのである。

9月21日 去る2月12日の午前10時に決戦議会の貴族院本会議で、聖戦完遂に関する決議案を上程可決したが、聖戦どころか神意に背いた残虐な戦争であったことをつくづく思う。

9月22日 アメリカの日本管理政策はじめて発表さる。負けて、勝利者の苛酷を知る。

## おわりに

本稿は飯塚米雨という戦前期の美術史家が、美的感性で捉えた空襲描写とスケッチ、そして戦時下を家族4人で生き抜いた彼の空襲体験について、可能な限り全体像を示した。

第1冊では徴用、配給、隣組、暁天動員など主に戦時下の暮らしについて。第1冊と第2冊に跨がり描かれた敵機と照空灯の絵画的描写は、スケッチと併せて紹介した。第2冊では米雨がスケッチに描いた来訪者についても触れた。第3冊では3月9日深夜から10日未明にかけての大空襲を経て、焼け野原となった東京と、疎開転出を試みる人々の動き。第4冊では毎日のように鳴り響く警報とともに生活した様子。第5冊では敗戦が空襲からの解放であった安堵感と、連合国軍の占領下となる緊張。そして残虐な戦争を振り返っての批判が綴られた。

米雨の特有な感性によるスケッチは、他の戦争体験者が戦争の恐怖を題材に描いた体験画と乖離していることは、第2章で既に指摘した通りである。日記においても、いわゆる労苦を伝えるための体験記とは性質を異にする傾向がある。その背景として、米雨が運良く自宅を焼け出されことなく空襲直撃を免れたこと、息子が徴用を免れたことなどが挙げられる。だが、それ故にラジオと新聞、息子夫婦ら

から得た情報を、戦中から敗戦に至るまで、具にリアルタイムで遺すことに成功したと言える。

それでは本資料の資料的価値はどこにあるのか。やはり空襲警報と防空情報を徹底的に記録したところであろう。米雨がラジオから流れる軍情報をどれほど仔細かつ正確に、しかも大量に記述したか。これほど警報と軍情報を記した日記は他に例を見ない。昭和19年（1944）11月から敗戦に至るまでの東京での暮らしが、いかに空襲とともに生きた日々であったかが、本資料により痛感できる。また、軍事と政治の動向を冷静に注視した米雨が早期から反戦の意を示し、広島と長崎を始めとした東京以外の地域の惨禍について記した点も見逃せない。

本稿が飯塚米雨という人物を掘り起こし、より多くの方に本資料を知っていただく契機となれば幸いである。

## 【註】

- 1) 昭和18年（1943）7月1日、東京府と東京市が廃され、東京都となった。
- 2) 日本放送協会編『放送五十年史』（日本放送出版協会、1977）、165頁。
- 3) 「東京空襲日記 第一冊」（980043377）昭和19年（1944）11月5日。なお、資料からのテキスト抜粋にあたっては、漢数字を算用数字に、旧字体・旧仮名遣いは新字体・現代仮名遣いに、踊り字（くの字点）は元の文字に改めた。以下同。
- 4) 防衛庁防衛研修所戦史室『戦史叢書 本土決戦準備〈1〉関東の防衛』（朝雲新聞社、1971）、263頁。
- 5) 「東京空襲日記 第三冊」（980043379）昭和20年（1945）2月9日。
- 6) 「東京空襲日記 第三冊」（980043379）昭和20年（1945）2月10日挿入、「東部軍管区情報図」。
- 7) 警視庁史編さん委員会編『警視庁史 昭和前編』（警視庁、1962）、1034頁。ただし、正確な死者数は分かっておらず、実際には約10万人が亡くなったと言われている。
- 8) 「東京空襲日記 第三冊」（980043379）昭和20年（1945）3月9日。
- 9) 当館所蔵「東京空襲スケッチ」附属品、昭和20年（1945）3月1日付飯塚米雨の書付より抜粋。
- 10) 「東京空襲日記 第二冊」（980043378）昭和19年（1944）12月10日。
- 11) 管制電灯とは、敵機の夜間空襲に備えて明かりを制限した電灯のこと。
- 12) 「東京空襲日記 第三冊」（980043379）昭和20年（1945）2月2日。
- 13) 東京都編『東京都戦災誌』（東京都、1953）、151頁。
- 14) 日記に登場する米雨の家族以外の一般人名は、全てアルファベット1文字に置き換えた。以下同。
- 15) 詮衡とは、適不適格を調べること。詮衡所は徴用するにあたっての検査所。
- 16) 強制疎開とは、空襲で火災が周囲に広がるのを防ぐため、強制的に建物を撤去させられること。建物疎開とも。人を他所へ移す意もある。
- 17) 暁天動員とは、在郷軍人会が主宰する軍事教練のこと。早朝に行われることから、この名がついた。
- 18) 谷狂竹（1882-1950）は普化尺八の奏者。虚無僧として国内外を行脚した。
- 19) 片山榮衛は外務省職員。外務省の法律顧問であったイギリス人、トマス・バティ（Thomas Baty, 1869-1954）の秘書を務めた。
- 20) カーチス・ルメイ（Curtis Emerson LeMay, 1906-1990）は、「東京大空襲」を指揮したアメリカ軍人。
- 21) 省線とは、運輸通信省が運営していた鉄道路線の通称。



【表1】東京空襲年表

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
第1冊	昭和19年 (1944) 11月	1日	13時20分空襲警報発令 [全都は大変な騒ぎ。突然の空襲警報に誰もがあわてた]／空襲警報解除／夜、警戒警報発令
		2日	11時頃警戒警報解除
		5日	10時警戒警報発令、つづいて空襲警報発令／11時40分空襲警報解除／15時頃に警戒警報解除
		6日	9時30分警戒警報発令／12時警戒警報解除
		7日	13時警戒警報発令、つづいて空襲警報発令／14時40分空襲警報解除／15時過ぎ警戒警報解除
		24日	12時警戒警報発令／12時10分空襲警報発令／15時10分空襲警報解除／17時15分警戒警報解除
		25日	11時30分警戒警報発令／13時警戒警報解除
		26日	13時8分警戒警報発令／14時48分警戒警報解除
		27日	12時5分警戒警報発令／12時50分空襲警報発令／15時5分空襲警報解除／15時38分警戒警報解除
		29日	23時27分警戒警報発令／23時40分空襲警報発令、今夜が東京初の夜間爆撃である。
		30日	2時40分空襲警報解除／3時10分警戒警報解除／4時警戒警報発令／4時10分空襲警報発令／5時20分空襲警報解除／5時50分警戒警報解除
	12月	2日	14時頃、横須賀に警戒警報が発令
		3日	13時30分警戒警報発令／13時50分空襲警報発令／15時50分空襲警報解除／16時35分警戒警報解除
		6日	12時15分警戒警報発令／13時30分警戒警報解除
		7日	1時35分警戒警報発令／1時50分空襲警報発令／3時15分空襲警報解除／4時15分警戒警報解除
第2冊		7日	17時5分警戒警報発令／18時5分空襲警報発令／18時50分空襲警報解除
		8日	2時10分警戒警報発令／2時20分空襲警報発令／3時20分空襲警報解除／4時55分警戒警報解除／12時5分警戒警報発令／14時45分警戒警報解除
		9日	3時10分警戒警報発令／3時55分警戒警報解除／9時45分警戒警報発令／10時22分警戒警報解除／20時5分警戒警報発令／20時55分警戒警報解除
		10日	19時30分警戒警報発令／20時5分空襲警報発令／20時45分空襲警報解除／21時警戒警報解除
		11日	2時30分警戒警報発令／3時58分警戒警報解除／23時50分警戒警報発令
		12日	1時27分警戒警報解除／2時40分警戒警報発令／3時50分警戒警報解除／19時30分警戒警報発令／19時40分空襲警報発令／19時55分空襲警報解除／20時10分警戒警報解除／21時25分警戒警報発令／21時33分空襲警報発令／22時13分空襲警報解除／22時26分警戒警報解除
		13日	4時35分警戒警報発令／5時18分警戒警報解除／13時5分警戒警報発令／13時30分空襲警報発令／15時8分空襲警報解除
		14日	2時50分警戒警報発令／3時30分警戒警報解除
		15日	3時警戒警報発令／3時15分空襲警報発令／4時空襲警報解除／5時20分警戒警報解除／[9時前] 遠くでラジオの「ダイダイ…横須賀東管区、警戒警報…」という声が聞こえた。
		18日	12時25分警戒警報発令／14時13分警戒警報解除／22時50分警戒警報発令／23時50分警戒警報解除
		20日	0時40分警戒警報発令／1時43分警戒警報解除／10時45分警戒警報発令／11時15分警戒警報解除／22時警戒警報発令／22時48分警戒警報解除
		21日	21時15分警戒警報発令／21時48分警戒警報解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		22日	0時10分警戒警報発令／0時52分警戒警報解除／12時14分警戒警報発令／13時59分警戒警報解除
		23日	4時10分警戒警報発令／5時14分警戒警報解除／21時警戒警報発令／22時13分警戒警報解除
		24日	2時5分警戒警報発令／5時10分警戒警報解除
		25日	2時30分警戒警報発令／5時23分警戒警報解除
		27日	11時57分警戒警報発令／12時16分空襲警報発令／14時15分空襲警報解除／14時35分警戒警報解除／21時5分警戒警報発令／22時23分警戒警報解除
		28日	15時25分警戒警報発令／15時40分空襲警報発令／16時58分空襲警報解除／17時25分警戒警報解除／20時警戒警報発令／23時12分警戒警報解除
		29日	20時32分警戒警報発令／21時56分警戒警報解除
		30日	1時警戒警報発令／2時39分警戒警報解除／3時35分警戒警報発令／4時3分警戒警報解除
		31日	21時43分警戒警報発令／22時15分警戒警報解除／23時55分警戒警報発令
	昭和20年 (1945) 1月	1日	0時32分警戒警報解除／4時53分警戒警報発令／5時29分警戒警報解除
		4日	19時13分警戒警報発令／19時40分警戒警報解除
		5日	5時10分警戒警報発令／5時55分警戒警報解除／20時50分警戒警報発令／22時21分警戒警報解除
		6日	5時5分警戒警報発令／5時47分警戒警報解除／19時46分警戒警報発令／20時45分警戒警報解除
		7日	5時15分警戒警報発令／6時14分警戒警報解除
		9日	13時34分警戒警報発令／13時55分空襲警報発令／15時10分空襲警報解除／15時30分警戒警報解除
		10日	0時44分警戒警報発令／1時6分警戒警報解除／4時43分警戒警報発令／5時7分警戒警報解除／20時12分警戒警報発令／21時9分警戒警報解除
		11日	0時30分警戒警報発令／1時警戒警報解除／2時30分警戒警報発令／2時53分警戒警報解除／21時58分警戒警報発令／23時警戒警報解除
		12日	0時50分警戒警報発令／1時45分警戒警報解除／3時13分警戒警報発令／3時56分警戒警報解除
		16日	10時2分警戒警報発令／10時24分警戒警報解除
		17日	4時37分警戒警報発令／5時9分警戒警報解除／21時35分警戒警報発令／22時17分警戒警報解除
		19日	13時53分警戒警報発令／14時50分警戒警報解除
		22日	19時40分警戒警報発令／20時11分警戒警報解除
		23日	0時35分警戒警報発令／1時46分警戒警報解除
		24日	午後7時のラジオは「右の大本営発表を解説して〔名古屋に襲撃する敵機B29、70機に対して〕「損害を与えたもの約50」とは、計算に重複があってはならぬから、内輪に見積もったものであって、実際はそれ以上の数に上っているものと見られ、実に9割の損害を与えたもので、かつてない最高記録である。敵側の無電も「今回のようにひどい目にあったのは、日本爆撃以来初めてであった。また、雲が深くて爆撃の成果を確認することが出来なかった」と報告しているに見ても、我が邀撃戦が空前の熾烈であったことが分かる」と放送。
		26日	21時40分警戒警報発令／22時30分警戒警報解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		27日	0時20分警戒警報発令／0時54分警戒警報解除／2時19分警戒警報発令／3時4分警戒警報解除／13時5分警戒警報発令／14時空襲警報発令／15時10分空襲警報解除／15時24分警戒警報解除／23時15分警戒警報発令／23時55分警戒警報解除
		28日	10時11分警戒警報発令／10時34分警戒警報解除／10時50分警戒警報発令／11時12分警戒警報解除／21時41分警戒警報発令／22時30分警戒警報解除
		29日	0時45分警戒警報発令／1時27分警戒警報解除／3時29分警戒警報発令／4時8分警戒警報解除
第3冊	2月	2日	0時20分警戒警報発令／0時47分警戒警報解除／19時55分警戒警報発令／20時27分警戒警報解除
		7日	8時23分警戒警報発令／9時53分警戒警報解除
		9日	13時27分警戒警報発令／14時34分警戒警報解除
		10日	9時33分警戒警報発令／10時59分警戒警報解除／13時26分警戒警報発令／14時14分空襲警報／15時58分空襲警報解除／16時3分警戒警報解除／21時25分警戒警報発令／22時14分警戒警報解除／22時59分警戒警報発令／23時27分1秒警戒警報解除
		11日	0時から6管区制実施さる。2時25分警戒警報発令／2時43分警戒警報解除／11時警戒警報発令／11時42分半警戒警報解除
		12日	9時45分警戒警報発令／10時23分警戒警報解除／19時2分警戒警報発令／19時28分警戒警報解除
		14日	3時22分警戒警報発令／3時40分警戒警報解除／9時49分警戒警報発令／10時41分警戒警報解除
		15日	13時26分警戒警報発令／15時17分警戒警報解除／20時17分警戒警報発令／20時46分警戒警報解除
		16日	7時7分警戒警報発令／7時10分空襲警報／9時39分空襲警報解除／10時47分空襲警報発令「東部軍管区情報、先に京浜西南方を東北進める敵小型機編隊は、反転南下しつつあり」／11時14分「ダイダイー東部軍管区情報、先に東京方面を北進せる敵小型機の2個編隊は、我が制空部隊により撃退せられたるも別に新たなる敵の2個編隊は、関東東部と房総北部にそれぞれ侵入中なり」／12時6分空襲警報解除／12時35分空襲警報発令／13時25分空襲警報解除／14時57分空襲警報発令／16時空襲警報解除／23時14分にラジオのダイダイが鳴り始めた。
		17日	7時35分空襲警報発令／8時27分空襲警報解除／9時47分空襲警報発令／10時52分空襲警報解除／12時5分空襲警報発令／12時20分空襲警報解除／16時4分警戒警報解除／20時33分警戒警報発令／22時警戒警報解除／23時20分警戒警報発令
		18日	0時2分警戒警報解除／2時40分警戒警報発令／3時2分警戒警報解除
		19日	14時37分警戒警報発令／14時40分空襲警報発令／15時46分空襲警報解除／16時0分警戒警報解除
		20日	7時9分警戒警報発令／8時30分警戒警報解除
		21日	4時40分警戒警報発令／5時警戒警報解除／13時14分警戒警報発令／14時36分警戒警報解除
		22日	11時29分警戒警報発令／11時50分警戒警報解除
		24日	3時45分警戒警報発令／4時22分警戒警報解除／18時51分警戒警報発令／19時23分警戒警報解除／21時15分警戒警報発令／21時47分警戒警報解除



	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		25日	0時21分警戒警報発令／0時41分警戒警報解除／7時35分警戒警報発令／7時40分空襲警報／10時35分空襲警報解除／14時15分空襲警報発令／14時19分にB29編隊は爆弾を投下しつつ、頭上を全速力で西より東に走る（第7回通過）半鐘鳴り、高射砲轟き「待避」の叫び／15時1分にB29編隊は爆弾を投下しつつ、頭上を全速力で西から東に走る（第12回通過）／16時5分空襲警報解除／16時33分警戒警報解除／21時22分警戒警報発令／22時11分警戒警報解除
		26日	0時40分警戒警報発令／1時12分警戒警報解除／7時21分警戒警報発令／8時23分警戒警報解除／19時ラジオ「東部軍管区情報」／19時2分警戒警報発令／19時25分警戒警報解除
	3月	4日	[朝7時、不忍弁天堂に詣づ。帰途音楽学校門前にて] 警戒警報発令 [のサイレンを聞く。間もなく空襲警報のサイレン鳴る]／10時頃空襲警報解除、ついで警戒警報解除
		5日	0時過ぎ警戒警報発令／1時55分警戒警報解除／2時30分頃に警戒警報のサイレン [に起こされ、] 3時頃解除 [また寝る]／19時頃警戒警報発令／19時30分頃警戒警報解除
		6日	12時頃警戒警報発令／12時35分頃警戒警報解除／23時30分頃警戒警報発令
		7日	0時51分頃警戒警報解除／12時25分警戒警報発令／12時57分半警戒警報解除
		8日	9時47分警戒警報発令／10時36分警戒警報解除
		9日	22時30分警戒警報発令 [ラジオの軍情報は「B29各1機づつ3機が、東南方洋上から房総半島海岸線付近を旋回中」と言うので、防空陣がそれを聞いていると、敵機は頭上を東側と西側の二方を南から北に飛んで、焼夷弾をばら撒いた。誰もが啞然とした。近頃の軍情報はこの通りだから、私は情報を聞くより空を見ていると言うのである。]
		10日	0時10分頃空襲警報／2時35分空襲警報解除／3時27分頃警戒警報解除 [既に電灯消え、ラジオは黙っているので、警戒警報の解除は警察署から町会へ連絡があって、各隣組へ口頭伝達された。火は盛んに燃え続ける]／10時18分警戒警報発令／10時50分警戒警報解除
		11日	4時警戒警報発令、B29 1機侵入。電灯つかず、ラジオ鳴らず、敵機の所在分らず、またいつ解除になったかも判らず、口頭伝達もない。町の不安は募るばかりだ。／12時50分警戒警報発令／13時10分空襲警報／13時50分空襲警報解除／14時20分警戒警報解除
		12日	21時警戒警報発令／21時25分解除
		15日	[朝から電灯消え、ラジオ鳴らない] 7時25分警戒警報発令／8時20分頃に「南方海上の敵状に関し、予めサイレンを鳴らしたが、その後新報を得ず情報を打ち切りサイレンを再吹鳴する」を通達あり。
		17日	1時35分警戒警報発令／3時22分警戒警報解除／13時25分警戒警報発令／13時52分警戒警報解除
		18日	11時55分警戒警報発令／13時7分警戒警報解除／13時11分警戒警報発令／13時50分警戒警報解除
		20日	9時10分警戒警報発令／9時30分警戒警報解除／12時30分警戒警報発令／12時50分解除
		21日	[正午のラジオで「大本営発表、硫黄島の玉砕」放送さる]／13時35分警戒警報発令／14時10分警戒警報解除
		24日	8時45分警戒警報発令／10時11分警戒警報解除／22時警戒警報発令
		25日	0時10分頃警戒警報解除
		26日	1時警戒警報発令／1時25分警戒警報解除
		28日	12時20分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除
		29日	12時半頃か、警戒警報発令／12時40分頃か、警戒警報解除
		30日	9時30分警戒警報発令／9時51分警戒警報解除／11時44分警戒警報発令／12時10分警戒警報解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		31日	12時15分警戒警報発令／12時40分警戒警報解除
	4月	1日	7時9分警戒警報発令／7時40分警戒警報解除／19時警戒警報発令／19時20分警戒警報解除
		2日	2時警戒警報発令／2時25分空襲警報発令／3時25分空襲警報解除／3時50分警戒警報解除／8時45分警戒警報発令／9時15分警戒警報解除／11時50分警戒警報発令／12時20分警戒警報解除
		3日	11時警戒警報発令／12時警戒警報解除
		4日	0時30分警戒警報発令／0時40分空襲警報発令／4時10分空襲警報解除／4時30分警戒警報解除／9時5分警戒警報発令／9時40分警戒警報解除／11時30分警戒警報発令／12時5分警戒警報解除
		5日	12時45分警戒警報発令／13時16分警戒警報解除
		6日	9時50分警戒警報発令／10時20分警戒警報解除
		7日	7時15分警戒警報発令／8時40分空襲警報発令／10時40分空襲警報解除／10時50分警戒警報解除／13時33分警戒警報発令／14時9分警戒警報解除
		8日	12時7分警戒警報発令／12時27分警戒警報解除／12時40分警戒警報発令／12時57分警戒警報解除
		9日	12時20分警戒警報発令／13時警戒警報解除
		10日	12時5分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除
		11日	11時30分警戒警報発令／12時16分警戒警報解除
		12日	8時頃か、警戒警報発令／9時20分空襲警報発令／11時55分空襲警報解除／12時10分警戒警報解除／13時頃か、警戒警報発令／13時20分頃か、警戒警報解除／23時警戒警報発令／23時13分警戒警報解除
		13日	9時警戒警報発令／車中にて14時56分頃警戒警報発令。情報も解除も一切分らず／22時45分警戒警報発令／23時空襲警報発令
		14日	2時23分空襲警報解除／2時30分頃警戒警報解除か
		15日	0時45分警戒警報発令／2時6分警戒警報解除／9時20分頃か／警戒警報発令／9時50分警戒警報解除／10時30分警戒警報発令
		16日	1時30分警戒警報解除
		17日	9時10分警戒警報発令／9時50分警戒警報解除／11時25分警戒警報発令／12時5分警戒警報解除／13時45分警戒警報発令／14時15分警戒警報解除
		18日	12時5分警戒警報発令。B29 1機。富士山東側より大宮附近に至り、大宮の北側から印旛沼、関東東部を経て、東方海上に退去。12時30分警戒警報解除
		19日	0時55分警戒警報発令／1時5分警戒警報解除／9時55分警戒警報発令／9時57分空襲警報発令／10時46分空襲警報解除／11時22分警戒警報解除
		20日	12時25分警戒警報発令／12時48分警戒警報解除
		22日	8時30分頃か、警戒警報のポー鳴る。／9時頃か、警戒警報解除／11時頃か、警戒警報のポー鳴る。解除は分からない。今日の空襲警報は4回あったと言うが、1回は知らなかった。
		23日	12時5分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除
		24日	7時30分警戒警報発令／8時25分空襲警報発令／9時31分空襲警報解除／9時40分警戒警報解除／12時10分警戒警報発令／12時30分警戒警報解除
		25日	12時40分警戒警報発令／13時16分警戒警報解除
		28日	10時30分頃警戒警報発令／10時50分頃警戒警報解除／12時6分警戒警報発令／12時30分解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
第4冊		29日	9時35分警戒警報発令／10時55分警戒警報解除／11時5分警戒警報発令／11時30分警戒警報解除／11時40分警戒警報発令／12時46分警戒警報解除
		30日	8時15分警戒警報発令／8時33分空襲警報発令／9時42分空襲警報解除／10時空襲警報発令／11時空襲警報解除／12時2分警戒警報解除／21時30分警戒警報発令／21時45分警戒警報解除
	5月	1日	11時53分警戒警報発令／13時20分警戒警報解除
		3日	15時14分警戒警報発令／15時35分警戒警報解除
		4日	9時15分警戒警報発令／10時11分警戒警報解除／12時4分警戒警報発令／12時25分警戒警報解除
		5日	10時33分警戒警報発令／11時20分関東地区警戒警報解除／23時30分警戒警報発令／23時36分空襲警報発令
		6日	0時30分空襲警報解除／0時47分警戒警報解除／9時警戒警報発令／9時26分警戒警報解除／11時29分警戒警報発令／11時43分警戒警報解除／12時1分警戒警報発令／12時25分警戒警報解除
		7日	9時25分警戒警報発令／10時26分関東地区、横須賀地区警戒警報解除／10時45分警戒警報発令／11時30分警戒警報解除／12時5分警戒警報発令／12時30分警戒警報解除
		8日	11時32分警戒警報発令／11時37分空襲警報発令／12時25分空襲警報解除／12時40分警戒警報解除
		10日	12時警戒警報発令／13時2分警戒警報解除
		11日	0時35分警戒警報発令／1時5分警戒警報解除／8時32分警戒警報発令／8時55分警戒警報解除／10時25分警戒警報発令／10時52分警戒警報解除
		12日	12時30分警戒警報発令／12時50分警戒警報解除
		13日	11時43分警戒警報発令／12時5分警戒警報解除／23時50分警戒警報発令
		14日	1時23分警戒警報解除／8時22分警戒警報発令／9時22分警戒警報解除／11時34分警戒警報発令／11時56分警戒警報解除
		15日	10時58分警戒警報のボーが野呂馬に鳴る。11時5分ラジオ「ヂイヂイー東部軍管区情報、器材の故障により、一部に吹鳴せるも、関東地区には警戒警報発せられあらず」と。監視に出た人が引込む
		16日	11時40分警戒警報発令／12時4分警戒警報解除
		17日	11時30分警戒警報発令／12時49分空襲警報発令／13時20分空襲警報解除／13時26分警戒警報解除
		18日	8時19分警戒警報発令／8時52分警戒警報解除／11時55分ラジオの軍情報「B29 1機は、富士山西南方より沼津付近を転回の後、伊豆半島を南下し、下田付近より南方に退去」／12時20分警戒警報解除
		19日	9時29分警戒警報発令／11時43分空襲警報解除（私は空襲のサイレンを聞かなかった。その不注意に自ら驚いた）／11時57分警戒警報解除
		20日	12時警戒警報発令／12時30分警戒警報解除
		21日	11時59分ラジオの軍情報「11時50分頃B29 1機、御前崎附近より駿河湾に侵入。11時55分頃静岡附近を東北進。12時頃沼津西方を東北進」／12時4分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		24日	1時10分警戒警報発令／1時35分空襲警報発令／3時50分空襲警報解除／3時57分警戒警報解除／11時52分のラジオの軍情報、駿河湾より侵入せる敵1機、浜松西南方にあり。また勝浦南方海上にあり」[中略] つづいて東部軍管区情報、遠州灘を北進中なりし／12時35分警戒警報発令／12時57分警戒警報解除
		25日	0時警戒警報発令／東部軍管区情報 [中略] 「一部サイレンの故障により吹鳴ありたるも、未だ関東地区には警戒警報発令せられあらず」／1時13分関東海面警戒警報解除／8時警戒警報発令／8時27分警戒警報解除／11時50分警戒警報発令／12時空襲警報発令／12時40分空襲警報解除／13時2分警戒警報解除／22時警戒警報発令／22時23分空襲警報発令
		26日	午前1時頃空襲警報解除のサイレンが鳴り、1時30分頃警戒警報解除の口頭伝達があった／7時14分に警戒警報のサイレン／12時37分に「電灯がつくと、」同時に警戒警報発令／12時55分警戒警報解除／23時40分警戒警報発令
		27日	0時45分警戒警報解除／11時13分警戒警報発令／11時35分警戒警報解除／正午のラジオのニュースに続いて、東部軍管区情報、B24 1機は、九十九里浜に沿い南進す。敵は超低空なるを以て、警戒を要す」新たな敵B24 2機は、駿河湾を東南進中なり。伊豆半島警戒を要す」九十九里浜にありしB24 1機、伊豆南方にありしB24 2機は、いずれも南方海上に退去しつつあり、只今12時30分であります」B24 1機 B24 2機は南方海上に退去せり。只今12時48分であります」
		28日	11時43分警戒警報発令／12時24分空襲警報発令／13時20分空襲警報解除／14時警戒警報解除
		29日	0時45分警戒警報発令／1時1分警戒警報解除／6時25分警戒警報発令／8時12分空襲警報発令／10時44分空襲警報解除／10時50分警戒警報解除／12時22分警戒警報発令／12時40分警戒警報解除
		30日	12時警戒警報発令／12時40分警戒警報解除
		31日	10時26分警戒警報発令／10時38分頃から電灯が消えて／ラジオが鳴らなくなった。11時に五長「ママ」のSさんが来たので訊くと「もう解除になりました。他の群で解除を傳達したのが聞こえたのです」と。／12時49分警戒警報発令／13時10分警戒警報解除
	6月	1日	11時45分警戒警報発令／12時10分警戒警報解除
		3日	正午、ラジオの東部軍管区情報、敵B29 1機は、山梨地区より長野地区に侵入しつつあり。長野地区警戒警報発令、敵は長野地区を北進中なり」／12時10分警戒警報発令／12時51分警戒警報解除
		4日	0時12分警戒警報発令／0時47分警戒警報解除
		7日	11時43分警戒警報発令／12時4分警戒警報解除
		8日	11時40分警戒警報発令／12時8分警戒警報解除
		9日	15時55分警戒警報発令／16時13分警戒警報解除
		10日	6時40分警戒警報発令／7時5分空襲警報発令／9時45分空襲警報解除／9時55分警戒警報解除／12時10分警戒警報発令／12時40分警戒警報解除
		11日	9時5分警戒警報発令／9時36分警戒警報解除／11時27分警戒警報発令／11時35分空襲警報発令／12時10分空襲警報解除／12時24分警戒警報解除
		13日	11時49分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除／23時27分警戒警報発令
		14日	1時50分警戒警報解除／12時23分警戒警報発令／13時7分警戒警報解除



	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		16日	0時22分警戒警報発令／0時30分空襲警報発令／1時18分空襲警報解除／1時41分警戒警報解除／正午、ラジオの東部軍管区情報「敵らしき一目標、大島附近を西北進し、伊豆半島東海岸に近接しつつあり一只今12時2分であります」「相模湾より伊豆北部に近接中なりし敵らしき一目標は、12時4分頃富士山東南方にあり一只今12時6分であります」／12時10分警戒警報発令／12時51分警戒警報解除
		17日	11時49分警戒警報発令／12時19分警戒警報解除
		19日	11時44分警戒警報発令／12時7分警戒警報解除／23時28分警戒警報発令／23時35分ラジオ東部軍管区情報
		20日	2時47分警戒警報解除（情報放送は続く）／12時23分警戒警報発令／12時42分警戒警報解除
		21日	新聞を読んでいると、遠くでラジオの防空放送の予知音がダイダイ聞こえたので、スイッチを入れる。午前10時の時報が鳴ってから「ダイダイ東部軍管区情報、伊豆半島のB29 1機は南方海上に退去せり。甲斐地区警戒警報解除一只今10時1分であります」今日から警戒警報も、空襲警報と同様に、甲斐地区、長野地区、東京地区、千葉地区というように地区別に発令、解除が施行されることになった。／23時24分警戒警報発令／23時37分空襲警戒警報発令
		22日	0時57分警戒警報解除／12時12分警戒警報発令／12時35分警戒警報解除
		23日	6時35分警戒警報発令／6時52分警戒警報解除／7時警戒警報発令／9時25分警戒警報解除／11時40分警戒警報発令／12時6分空襲警報発令／13時21分空襲警報解除／13時44分警戒警報解除／23時10分警戒警報発令
		24日	0時35分警戒警報解除
		26日	11時56分警戒警報発令／12時19分半警戒警報解除
		27日	11時36分警戒警報発令／12時警戒警報解除
		28日	12時30分警戒警報発令／13時警戒警報解除
		29日	1時4分警戒警報発令。（防空放送）1時5分頃B29 1機、熱海附近を東北進し、1時6分頃真鶴附近を東進す。只今警戒警報発令中は神奈川、横須賀、甲斐の3地区のみ、間違いなきよう／1時36分、神奈川、横須賀、千葉、甲斐地区、警戒警報解除／11時45分よりラジオ防空放送あり、B24 2機、勝浦附近を東北進して片貝附近へ
		30日	8時50分警戒警報発令／8時59分警戒警報解除
	7月	1日	23時3分警戒警報発令
		2日	0時56分警戒警報解除／12時50分警戒警報発令／13時11分警戒警報解除
		3日	0時45分警戒警報発令／1時10分警戒警報解除／13時25分警戒警報発令／13時40分警戒警報解除／22時35分警戒警報発令／23時16分警戒警報解除
		4日	12時7分警戒警報発令／12時14分空襲警報発令／13時7分空襲警報解除／13時15分警戒警報解除／14時40分警戒警報発令／14時50分警戒警報解除
		5日	11時13分警戒警報発令／11時20分空襲警報発令／11時59分空襲警報解除／12時35分警戒警報解除／23時30分警戒警報発令／23時45分警戒警報解除
		6日	10時警戒警報発令／11時20分警戒警報解除／11時43分警戒警報発令／12時8分空襲警報発令／13時20分空襲警報解除／13時30分警戒警報解除／23時30分警戒警報発令
		7日	0時8分空襲警報発令／2時21分空襲警報解除／3時45分警戒警報解除／22時10分警戒警報発令／23時警戒警報解除／23時30分警戒警報発令
		8日	0時の警戒警報解除後「敵機は尚本土に在り」と放送は続く／11時55分警戒警報発令／12時10分空襲警戒警報発令／13時41分空襲警報解除／13時50分警戒警報解除／23時33分警戒警報発令

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		9日	0時26分警戒警報解除／7時45分警戒警報発令／8時25分警戒警報解除／12時警戒警報発令／12時30分警戒警報解除
		10日	5時15分警戒警報発令／5時20分空襲警報発令／7時25分空襲警報解除／7時45分警戒警報解除／8時15分警戒警報発令／8時25分空襲警報発令／10時10分空襲警報解除／11時50分空襲警報発令／13時22分空襲警報解除、「空襲警報解除されたるも、尚お東方海上に敵あり。情報入り次第再吹鳴を行う」（この放送、13時36分）／13時36分警戒警報解除／14時7分警戒警報発令／14時36分空襲警報発令／17時12分空襲警報解除／18時30分警戒警報解除／23時19分警戒警報発令
		11日	0時12分警戒警報解除／1時44分警戒警報発令／2時40分警戒警報解除／7時52分警戒警報発令／9時警戒警報解除／12時9分警戒警報発令／12時26分警戒警報解除、千倉附近にある敵2機については防空放送続く。
		12日	11時45分警戒警報発令／12時2分警戒警報解除／22時55分警戒警報のサイレン鳴る。／23時12分警戒警報のサイレンまた鳴る
		13日	0時空襲警報発令／1時44分空襲警報解除／2時4分警戒警報解除／11時30分警戒警報発令／11時46分警戒警報解除
		14日	8時40分警戒警報発令／9時45分警戒警報解除／11時55分警戒警報発令／12時20分警戒警報解除
		15日	1時44分警戒警報発令／2時6分警戒警報解除／7時48分警戒警報発令／8時20分警戒警報解除／9時5分警戒警報発令／9時35分警戒警報解除／12時17分警戒警報発令／12時35分警戒警報解除／23時40分警戒警報発令
		16日	0時57分警戒警報解除／8時25分警戒警報発令／8時52分警戒警報解除／12時33分警戒警報発令／13時警戒警報解除／22時35分警戒警報発令／23時17分空襲警報発令
		17日	2時19分空襲警報解除／3時5分警戒警報解除／5時警戒警報発令／5時15分空襲警報発令／7時44分空襲警報解除／10時警戒警報解除／12時警戒警報発令／12時27分警戒警報解除／23時40分警戒警報発令
		18日	1時7分警戒警報解除／1時22分警戒警報発令／1時45分警戒警報解除／11時54分警戒警報発令／12時30分空襲警報発令
第5冊		18日	16時37分空襲警報解除／17時32分警戒警報解除
		19日	6時35分警戒警報発令／7時35分警戒警報解除／11時43分警戒警報発令／12時16分警戒警報解除／22時35分警戒警報発令／22時〔午前と午後の誤記あり〕50分空襲警報発令
		20日	1時56分空襲警報解除／2時23分警戒警報解除／7時2分警戒警報発令／7時30分警戒警報解除／8時19分に警戒警報のサイレンが薄く鳴る。[爆音が近づく、8時20分に、ブシーン。ガラス戸がピリピリと響いた。爆弾投下]／8時55分警戒警報解除／22時58分警戒警報発令／23時〔午前と午後の誤記あり〕29分警戒警報解除／23時40分警戒警報発令
		21日	0時12分警戒警報解除／0時40分警戒警報発令／1時1分警戒警報解除／11時40分警戒警報発令／12時10分警戒警報解除
		22日	11時52分の防空放送は「敵B29 1機、11時50分頃下田附近に侵入北進中」11時56分頃依然伊豆南部を旋回中」敵は、伊豆北部に侵入せり」（この放送12時4分）／12時5分警戒警報発令／12時35分警戒警報解除／22時19分警戒警報発令／23時警戒警報解除／23時45分警戒警報発令
		23日	0時40分半警戒警報解除〔午前と午後の誤記あり〕／9時25分警戒警報発令／9時55分警戒警報解除／11時45分警戒警報発令／12時9分警戒警報解除／22時55分警戒警報発令／23時22分警戒警報解除
	24日	8時22分警戒警報発令／9時16分半警戒警報解除／11時59分警戒警報発令／12時23分警戒警報解除	

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		25日	10時55分警戒警報発令／12時50分警戒警報解除／21時48分警戒警報発令／22時7分空襲警報発令
		26日	0時5分空襲警報解除／0時12分警戒警報解除／7時50分警戒警報発令／9時30分警戒警報解除／12時25分警戒警報発令／12時55分警戒警報解除／22時48分警戒警報発令／23時10分警戒警報解除
		27日	11時59分警戒警報発令／12時24分警戒警報解除／20時18分警戒警報発令／20時55分警戒警報解除／21時21分警戒警報発令／22時警戒警報解除
		28日	8時警戒警報発令／8時51分警戒警報解除／9時45分警戒警報発令／9時48分空襲警報発令／13時空襲警報解除／13時11分警戒警報解除／由利帰宅して、今日小型2機とB29 1機が丸ノ内上空を通過したと言う／20時50分警戒警報発令／22時18分警戒警報解除
		29日	0時48分警戒警報発令／2時10分警戒警報解除／7時55分警戒警報発令／8時55分警戒警報解除／9時20分警戒警報発令／9時40分警戒警報解除／10時警戒警報発令／10時35分警戒警報解除／11時50分警戒警報発令／12時33分警戒警報解除
		30日	5時51分警戒警報発令／5時55分空襲警報発令／8時15分空襲警報解除／9時空襲警報発令／10時10分空襲警報解除／10時24分警戒警報解除／11時警戒警報発令／11時18分空襲警報発令／14時10分空襲警報解除／14時41分警戒警報解除／15時1分警戒警報発令／15時7分空襲警報発令／17時空襲警報解除／17時18分警戒警報解除／22時5分警戒警報発令／22時34分警戒警報解除／23時警戒警報発令
		31日	0時30分警戒警報解除／12時23分警戒警報発令／12時45分警戒警報解除／20時8分警戒警報発令／22時35分警戒警報解除／23時28分警戒警報発令／23時47分警戒警報解除
	8月	1日	20時20分警戒警報発令／20時55分空襲警報発令
		2日	2時45分空襲警報解除／3時25分警戒警報解除／11時40分警戒警報発令／12時10分警戒警報解除
		3日	9時50分警戒警報発令／10時23分空襲警報発令／11時32分空襲警報解除／12時8分警戒警報解除／12時36分警戒警報発令／13時7分警戒警報解除
		4日	11時45分警戒警報発令／12時17分警戒警報解除／13時27分警戒警報発令／13時45分警戒警報解除
		5日	1時37分警戒警報発令／2時13分警戒警報解除／8時10分警戒警報発令／9時15分警戒警報解除／11時15分警戒警報発令／11時29分空襲警報発令／12時46分空襲警報解除／12時52分警戒警報解除／21時警戒警報発令／21時20分空襲警報発令
		6日	0時16分空襲警報解除／0時41分警戒警報解除／5時50分警戒警報発令／6時35分警戒警報解除／7時36分警戒警報発令／7時55分空襲警報発令／9時51分空襲警報解除／10時7分警戒警報解除
		7日	0時43分警戒警報発令／1時27分警戒警報解除／8時30分警戒警報発令／9時警戒警報解除／10時25分警戒警報発令／10時30分空襲警報発令／11時57分空襲警報解除／12時7分警戒警報解除
		8日	15時46分警戒警報発令／15時56分空襲警報発令／17時5分に空襲警報解除のサイレン鳴る／17時15分サイレン再び鳴る／「関東地区空襲警報解除」とラジオの防空放送は言う／17時20分サイレン3度鳴る。再度の空襲警報か。誤報か。機械の故障か。ラジオの放送は何も言わない／17時23分警戒警報解除／23時11分警戒警報発令／23時54分警戒警報解除
		9日	6時41分、遠くの警戒警報のサイレン鳴り、6時46分に科学博物館屋上のサイレン鳴る／7時31分警戒警報解除／警戒警報、一応解除されたるも、東北軍管区は尚お引続き敵艦上機の攻撃を受けつつあるを以て警戒を要す（この放送7時32分）／8時14分警戒警報発令／8時57分警戒警報解除

	年月	日	警戒警報、空襲警報等
		10日	6時10分警戒警報発令／7時40分空襲警報発令／10時50分空襲警報解除／11時11分警戒警報解除／11時52分警戒警報発令／12時22分警戒警報解除／13時15分警戒警報発令／14時40分警戒警報解除／17時39分警戒警報発令／18時10分警戒警報解除
		11日	1時18分警戒警報発令／2時26分警戒警報解除／11時26分警戒警報発令／11時53分警戒警報解除／12時19分警戒警報発令／12時51分警戒警報解除／20時警戒警報発令／20時32分警戒警報解除／22時15分警戒警報発令／22時25分空襲警報発令／23時40分空襲警報解除
		12日	0時12分空襲警報発令／0時30分空襲警報解除／0時46分警戒警報解除
		13日	5時25分警戒警報発令／5時30分空襲警報発令／10時5分空襲警報解除／11時12分空襲警報発令／17時、高射砲鳴り、敵機は西から東南方に行くらしいが、姿は雲で見えない／17時45分空襲警報解除／18時警戒警報解除／19時55分警戒警報発令／「B24 2機、相模湾を旋回中なり」「一部サイレンの吹鳴せる個所あるも、伊豆地区、千葉地区のみ警戒警報発令中なり」（この放送20時4分）これで東京地区のサイレンは取消し／23時43分警戒警報発令
		14日	0時15分警戒警報解除／1時36分警戒警報発令／2時3分警戒警報解除／6時21分警戒警報発令／6時45分警戒警報解除／7時27分警戒警報発令／7時55分警戒警報解除／8時30分警戒警報発令／9時警戒警報解除／22時53分警戒警報発令
		15日	0時28分空襲警報発令／2時57分空襲警報解除／3時5分警戒警報解除／5時25分警戒警報発令／5時35分空襲警報発令／●7時20分ラジオ「謹みてお伝え申し上げます、畏きあたりに於かせられましては、詔書御換発あらせられ、本日正午、天皇陛下御親ら御放送遊ばされます」／7時55分空襲警報解除／●10時ラジオ「有難き御放送は正午であります、有難き御放送に引続き政府の重大放送が行われます」／11時24分警戒警報解除／[正午の陛下の玉音を謹みて拝す]
		16日	10時5分警戒警報発令／11時警戒警報解除 [右は停戦協定の成立するまでの戦闘行為に属するものであるから、投弾はしない]
		17日	10時49分警戒警報発令／11時8分警戒警報解除
		18日	11時37分警戒警報発令／「11時55分頃B29 2機は、熊谷附近を東北進しつつあり」「B29 2機は群馬地区に侵入しつつあり」（この放送11時58分）…（以下略）…偵察飛行は今後粛々続くという。この情報放送を最後として、防空放送とお別れする

\* 本表は「東京空襲日記」の中で警報が度々発令されるようになった昭和19年11月から昭和20年8月までの間に、飯塚米雨が赤鉛筆で実線もしくは点線、角括弧を付した記述を抜粋したものである。赤鉛筆による印が付されなかった日は、含めていない。

\* 時刻の表記は、算用数字の24時間表記に改めた。

\* 午前と午後の誤記があった場合、修正した上で[午前と午後で誤記あり]を追記した。

\* 情報を補足するため、米雨が印を付した箇所の前後にあたる記述を加えた場合は、角括弧で括った。



【表2】東京空襲スケッチ一覧

	資料番号	資料名	記 述
1	98004342	東京空襲スケッチ 昭和十九年十一月二十四日 午後二時	昭和十九年十一月廿四日午後二時 敵B29悠々 中空ニ浮ブ 初見参 驚嘆ニ値ス
2	98004343	東京空襲スケッチ 昭和十九年十一月二十九日 夜十一時半	十一月廿九日夜十一時半 日本橋方面ノ焼夷弾 落下ヲ望ム
3	98004344	東京空襲スケッチ 昭和十九年十一月二十九日 午後十一時五十五分	十一月廿九日午後十一時五十五分 神田方面 火煙
4	98004345	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三日午後 三時	十二月三日午後三時 太陽ト落下傘ト飛行機
5	98004346	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月十日午後 八時十五分	十二月十日午後八時十五分 敵B29我照空燈ノ 三段円光中ニ直立ス
6	98004347	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月十二日午 後七時四十四分	十二月十二日午後七時四十四分 敵B29来襲 大塚方面ニ焼夷弾ヲ投下ス
7	98004348	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十日暁 三時	十二月二十日暁三時 夢中顕現ノ光景
8	98004349	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十三日 午前四時四十五分	十二月廿五日午前四時四十五分 敵B29一機照 空燈ニ捕捉サレ焼夷弾ヲ投下ス
9	98004350	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十四日 午前五時	十二月廿四日午前五時 友軍機飛ブ
10	98004351	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十四日 午前五時三分	十二月廿四日午前五時三分 友軍機飛ブ
11	98004352	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十七日 午後零時二十分	十二月廿七日午後零時廿分 敵B29七機編隊西 方ニ向フ 途中一時静止セル状態ヲ寫ス
12	98004353	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十七日 午後零時四十三分	十二月廿七日午後零時四十三分 敵B29八機東 進中ノ光景ヲ寫ス
13	98004354	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十七日 午後一時	十二月廿七日午後一時 敵編隊機遁走
14	98004355	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月二十七日 午後一時	十二月廿七日午後一時 敵B29撃墜
15	98004356	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三十日午 前二時十五分	十二月卅日午前二時十五分 敵B29一機我照空 燈ニ捕捉サレ高射砲ノ射撃ヲ受ク 雲深クシテ 機体ヲ見ズ
16	98004357	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三十日午 前三時四十六分	十二月三十日午前三時四十六分 敵B29北進ス
17	98004358	東京空襲スケッチ 昭和十九年十二月三十日午 前四時二十分	十二月卅日午前四時廿分 敵B29ノ焼夷弾投下 ニヨル三個所ノ火災ヲ望ム
18	98004359	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月一日午前零 時二十分	昭和廿年一月一日午前零時廿分 敵B29焼夷弾 投下ノ光景
19	98004360	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月七日夜	一月七日夜 普化尺八谷狂竹老訪問サル
20	98004361	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月九日午後二 時二十五分	一月九日午後二時廿五分 敵B29墜落ノ光景
21	98004362	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月九日午後二 時三十分	一月九日午後二時卅分 敵B29八機編隊東方ニ 遁走 其中一機火ヲ吐クヲ明カニ認ム

	資料番号	資料名	記 述
22	98004363	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月十日午後八時四十六分	一月十日午後八時五十七分 照空燈ノ壯観
23	98004364	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月十日午後八時五十七分	一月十日午後八時五十七分 敵B29照空燈ニ捕捉サレ高射砲ノ射撃ヲ受ケ遁走中
24	98004365	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月十一日午前二時四十五分	一月十一日午前二時四十五分 敵B29焼夷弾ヲ投下市シツ、東南方ニ遁走
25	98004366	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月十九日昼二時四十五分	一月十九日晝二時四十五分 友軍ノ七機飛行機雲ヲ引ク
26	98004367	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日午前二時四十一分	一月廿七日午前二時四十一分 敵B29一機東方ニ向フ
27	98004368	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日午前二時四十二分	一月廿七日午前二時四十二分 敵米29焼夷弾投下ニヨル一現象
28	98004369	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日午後二時	一月廿七日午後二時 敵B29十六機第一編隊我高射砲ノ射撃ヲ受ケ東方ニ遁走中一機全焼墜落ノ實況
29	98004370	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十七日午後十一時四十三分	一月廿七日午後十一時四十三分 敵B29焼夷弾投下ノ光景
30	98004371	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月二十八日午後九時五十八分	一月廿八日午後九時五十八分 敵B29ノ投彈ニヨル團子坂方面火災當初ノ光景ヲ望ム
31	98004372	東京空襲スケッチ 昭和二十年一月三十一日朝	“チェリーシップスが六ソウキル 犬モキルヤレルカドウカワカラナイがヤツツケテミヨウ” 一月三十一日朝 ベンジャミン先生 枉駕
32	98004373	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月二日午後八時十分	二月二日午後八時十分 照空燈ノ直線美
33	98004374	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十二日午後七時十三分	二月十二日午後七時十三分 我照空隊ノ活躍
34	98004375	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十六日午後零時三十七分	二月十六日午後零時三十七分 敵艦隊機撃墜ト敵撒布ノ傳單
35	98004376	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十七日午前十時五分	二月十七日午前十時五分 敵艦隊機群ト其撃墜
36	98004377	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十七日午前十時三十五分	二月十七日午前十時卅五分 敵艦隊機編隊ヲ射撃スル我高射砲ノ煙ハ恰モ七機編隊ノ飛行機形ヲ激撃スルニ似タリ一奇也
37	98004378	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十九日午後二時五十二分	二月十九日午後二時五十二分 敵B29六機上弦ノ月下ヲ東方ニ遁走
38	98004379	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月十九日午後三時十分	二月十九日午後三時十分 上弦ノ月下ヲ敵B29八機飛行雲ヲ引キ高々度ヲ以テ東南方ニ遁走
39	98004380	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月二十一日午後二時	二月廿一日午後二時 味方機ト飛行雲
40	98004381	東京空襲スケッチ 昭和二十年二月二十五日午後三時	二月廿五日午後三時 吹雪中ヲ敵B29相踵デ来襲爆弾焼夷弾ヲ混投ス 光景最凄絶 我家ノ待避

	資料番号	資料名	記 述
41		附属品	<p>以上ノ四十圖ハ昭和十九年十一月廿四日ヨリ翌廿年二月廿五日迄ニ於ケル亞米利加空軍B29並ニ艦載機F 6 F. SB2Cノ東京來襲ニ際シ、親シク目睹セル實景ヲ寫シタルモノナリ。熾烈ナル空爆ニ於テスラ此ノ如キ自然ノ書圖ヲ展舒ス。コノ天地ノ活畫、布置風趣ハ畫人ノ企及シ得ザルモノアリ。其自然現象ノ瞬間ノ畫面ヲ捕捉シテ毫モ作意セズ、以テ天開ノ意匠ヲ永保セントスルニ勉メタリ。各圖本ヨリー小景ニ過ギザルモ深ク觀察シテ作畫ノ要諦ハ自然構圖ノ讚美ニアルヲ知ルベシ。只空襲下ノ畧畫、畧ニ失セルハ已ムヲ得ズ。又別ニ東京空襲日記アレバー々詳細ノ解説ヲ附セズ。獨リ視テ一生一隅ノ記念畫タルヲ喜ビテ一言ヲ添フト云爾</p> <p>昭和二十年三月一日 東京上野櫻木町ノ僑居ニ於テ 米雨山人併識</p>